

**【表紙】**

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2020年3月30日
【事業年度】	第19期（自 2019年1月1日 至 2019年12月31日）
【会社名】	株式会社テクノフレックス
【英訳名】	TECHNOFLEX CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長兼社長執行役員 前島 岳
【本店の所在の場所】	東京都台東区蔵前一丁目5番1号
【電話番号】	03-5822-3211
【事務連絡者氏名】	取締役兼専務執行役員 管理本部長 川上 展生
【最寄りの連絡場所】	東京都台東区蔵前一丁目5番1号
【電話番号】	03-5822-3211
【事務連絡者氏名】	取締役兼専務執行役員 管理本部長 川上 展生
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

##### (1) 連結経営指標等

回次	第17期	第18期	第19期
決算年月	2017年12月	2018年12月	2019年12月
売上高 (千円)	18,692,390	19,858,989	18,999,763
経常利益 (千円)	2,493,522	2,721,587	2,437,214
親会社株主に帰属する当期純利益 (千円)	1,786,681	1,333,735	1,696,999
包括利益 (千円)	1,771,597	1,164,105	1,650,431
純資産額 (千円)	16,713,774	17,333,858	18,686,419
総資産額 (千円)	28,065,107	28,702,295	28,612,542
1株当たり純資産額 (円)	916.36	951.71	1,011.92
1株当たり当期純利益 (円)	99.58	74.34	94.50
潜在株式調整後1株当たり当期純利益 (円)	-	-	94.09
自己資本比率 (%)	58.6	59.5	64.4
自己資本利益率 (%)	11.3	8.0	9.6
株価収益率 (倍)	-	-	13.21
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	1,481,690	2,173,783	2,824,824
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	108,417	939,744	959,530
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	1,058,234	1,328,324	1,686,154
現金及び現金同等物の期末残高 (千円)	4,270,759	4,091,149	4,227,550
従業員数 (人)	903	870	882
(外、平均臨時雇用者数)	(150)	(151)	(146)

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 第17期及び第18期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、新株予約権の残高はありますが、当社株式は非上場であり、期中平均株価が把握できないため記載しておりません。

3. 当社は2019年12月10日付で東京証券取引所市場第二部に上場したため、第19期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益は、新規上場日から当連結会計年度末までの平均株価を期中平均株価とみなして算定しております。

4. 第17期及び第18期の株価収益率については、当社株式は非上場であるため、記載しておりません。

5. 従業員数は就業人員(当社グループからグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含む。)であり、臨時雇用者数(パートタイマー、人材会社からの派遣社員、季節工を含む。)は、年間の平均人員を( )外数で記載しております。

6. 第17期以降の連結財務諸表については、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(1976年大蔵省令第28号)に基づいて作成しており、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、三優監査法人の監査を受けております。

7. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)を第19期の期首から適用しており、第18期に係る主要な経営指標等については、当該会計基準を遡って適用した後の数値となっております。

## (2) 提出会社の経営指標等

回次	第15期	第16期	第17期	第18期	第19期
決算年月	2015年12月	2016年12月	2017年12月	2018年12月	2019年12月
売上高 (千円)	9,115,036	9,365,750	10,514,477	11,569,806	10,307,292
経常利益 (千円)	800,448	1,016,591	1,929,841	1,760,407	1,718,549
当期純利益 (千円)	525,312	1,042,811	577,136	1,186,612	1,281,180
資本金 (千円)	95,000	95,000	95,000	95,000	1,000,000
発行済株式総数 (株)	21,360,000	21,360,000	21,360,000	21,360,000	21,360,000
純資産額 (千円)	11,609,405	12,142,213	12,329,712	13,078,497	14,133,890
総資産額 (千円)	20,391,630	20,453,492	20,922,878	21,158,638	21,100,193
1株当たり純資産額 (円)	626.11	676.74	687.19	728.92	775.88
1株当たり配当額 (円)	11	15	30	26	38
(うち1株当たり中間配当額)	(6)	(5)	(12)	(12)	(14)
1株当たり当期純利益 (円)	28.34	56.71	32.17	66.14	71.34
潜在株式調整後1株当たり当期純利益 (円)	-	-	-	-	71.04
自己資本比率 (%)	56.9	59.4	58.9	61.8	67.0
自己資本利益率 (%)	4.5	8.8	4.7	9.3	9.4
株価収益率 (倍)	-	-	-	-	17.49
配当性向 (%)	38.8	26.5	93.3	39.3	53.3
従業員数 (人)	279	262	269	270	267
(外、平均臨時雇用者数)	(135)	(98)	(100)	(84)	(87)
株主総利回り (%)	-	-	-	-	-
(比較指標：-) (%)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
最高株価 (円)	-	-	-	-	1,360
最低株価 (円)	-	-	-	-	1,010

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 第17期の1株当たり配当額30円は、創立40周年記念配当3円を含んでおります。

3. 第15期及び第16期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。第17期及び第18期については、新株予約権の残高はありますが、当社株式は非上場であり、期中平均株価が把握できないため記載しておりません。

4. 当社は2019年12月10日付で東京証券取引所市場第二部に上場したため、第19期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益は、新規上場日から当事業年度末までの平均株価を期中平均株価とみなして算定しております。

5. 第15期から第18期までの株価収益率については、当社株式は非上場であるため、記載しておりません。

6. 従業員数は就業人員(当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者を含む。)であり、臨時雇用者数(パートタイマー、人材会社からの派遣社員、季節工を含む。)は、年間の平均人員を( )外数で記載しております。

7. 第17期以降の財務諸表については、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(1963年大蔵省令第59号)に基づき作成しており、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、三優監査法人の監査を受けております。

なお、第15期及び第16期については、「会社計算規則」(2006年法務省令第13号)に基づき算出した各数値を記載しており、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく、三優監査法人の監査を受けておりません。

8. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)を第19期の期首から適用しており、第18期に係る経営指標等については、当該会計基準を遡って適用した後の数値となっております。

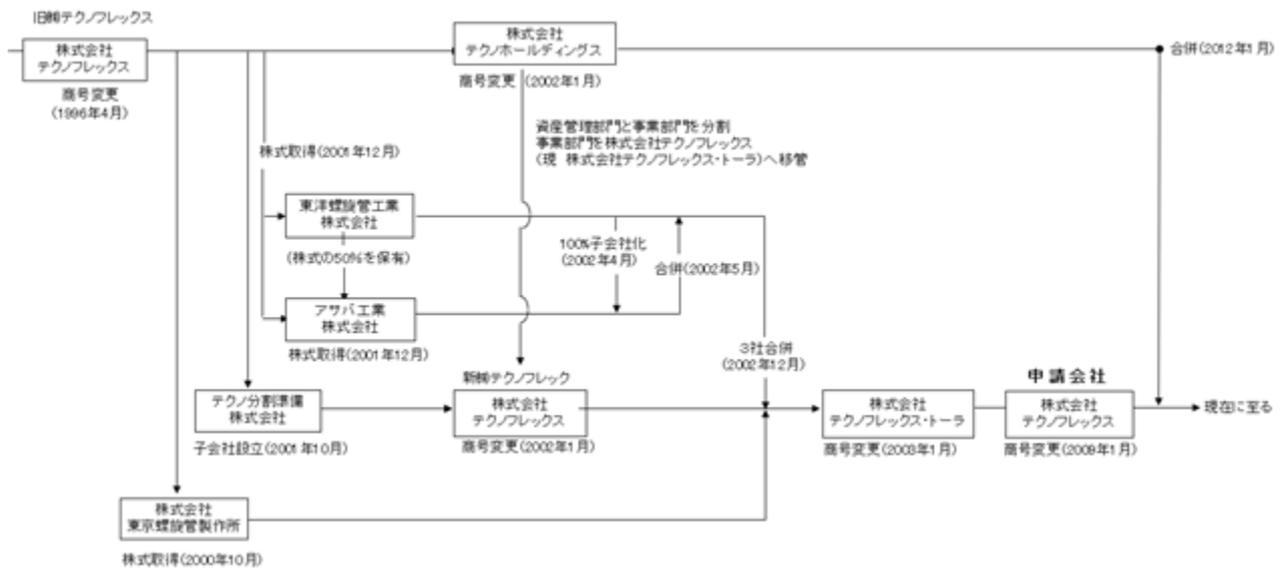
9. 株主総利回り及び比較指標については、2019年12月10日に東京証券取引所市場第二部に上場したため、記載

- しておりません。
10. 最高株価及び最低株価は、東京証券取引所市場第二部におけるものであります。なお、2019年12月10日をもって同取引所に上場いたしましたので、それ以前の株価については記載しておりません。

## 2【沿革】

1977年 8月	フレキシブル継手の製造と販売を目的として東京フレックス工業株式会社を資本金1千万円で東京都杉並区方南に設立
1977年12月	本社を東京都港区南麻布二丁目5番16号へ移転
1979年 4月	本社を東京都港区南麻布二丁目10番9号へ移転
1985年 3月	本社を千葉県船橋市潮見町へ移転
1988年 3月	フレキシブル継手の製造と販売を目的として中国天津市に天津天富軟管工業有限公司を設立
1991年 4月	本社を千葉県船橋市印内町へ移転
1991年 4月	製造・販売を一体化するため、子会社である東京フレックス東日本株式会社、東京フレックス西日本株式会社、東京フレックス中部株式会社及びビーエフクリーン株式会社を吸収合併し、商号を東京フレックス工業株式会社から株式会社東京フレックスに変更
1993年 3月	本社を千葉県船橋市葛飾町へ移転
1994年11月	フレキシブル継手の製造と販売を目的としてベトナム・ホーチミン市に現地法人TF(VIETNAM)CO., Ltd.を設立
1995年12月	千葉県船橋市に株式会社ティーエフケア（現株式会社スペースケア）を設立し、当社からシルバーケアプロジェクトを移管
1996年 4月	商号を株式会社東京フレックスから株式会社テクノフレックス（以下、「旧株式会社テクノフレックス」という。）に変更
2000年10月	伸縮管継手の製造販売を目的として株式会社東京螺旋管製作所の株式を取得し、子会社化
2001年10月	会社分割を目的としてテクノ分割準備株式会社を設立
2001年12月	伸縮管継手の製造販売を目的として東洋螺旋管工業株式会社及びアサパ工業株式会社の株式を取得し、子会社化
2002年 1月	グループ事業再編の一環として資産管理部門と事業部門とを分割し、事業部門を旧株式会社テクノフレックス からテクノ分割準備株式会社に移管し、旧株式会社テクノフレックス の商号を株式会社テクノホールディングスに変更、テクノ分割準備株式会社の商号を株式会社テクノフレックス（以下、「旧株式会社テクノフレックス」という。）に変更
2002年12月	経営効率化のため、連結子会社である株式会社東京螺旋管製作所及び東洋螺旋管工業株式会社を吸収合併
2003年 1月	本社を東京都中央区入船へ移転、旧株式会社テクノフレックス の商号を株式会社テクノフレックス・トーラに変更
2003年 8月	半導体向け管継手の製造と販売を目的として中国上海市に天孚真空機器軟管（上海）有限公司を設立
2004年 2月	水道管切断技術の取り込みを目的として、有限会社中野製作所（現株式会社中野製作所）の持分を取得し、子会社化
2009年 1月	株式会社テクノフレックス・トーラの商号を株式会社テクノフレックスに変更
2009年 9月	フレキシブル継手の製工一貫体制推進を目的として、株式会社防災企画の株式を取得し、子会社化
2011年 8月	本社を東京都台東区蔵前へ移転
2012年 1月	組織の合理化を目的として、株式会社テクノフレックスを存続会社、株式会社テクノホールディングスを消滅会社として吸収合併
2013年 3月	金属塑性加工技術取得を目的として、株式会社チューブフォーミングの株式を取得し、子会社化
2014年 3月	貯水機能付給水管装置の製造・販売を目的として、株式会社アクアリザーブを設立
2014年 3月	消防設備用配管の設計・製造・販売を目的として、株式会社TFエンジニアリングを設立
2016年 8月	貯水機能付給水管装置のリテール主体の販売を目的として、株式会社アクアリザーブ販売を設立
2017年 2月	フレキシブル継手の製工一貫体制推進を目的として、ニトックス株式会社の株式を取得し、子会社化
2017年 6月	業務効率化のため、株式会社アクアリザーブが株式会社アクアリザーブ販売を吸収合併
2018年 1月	業務効率化のため、株式会社TFエンジニアリングが株式会社防災企画を吸収合併
2019年12月	東京証券取引所市場第二部に株式を上場

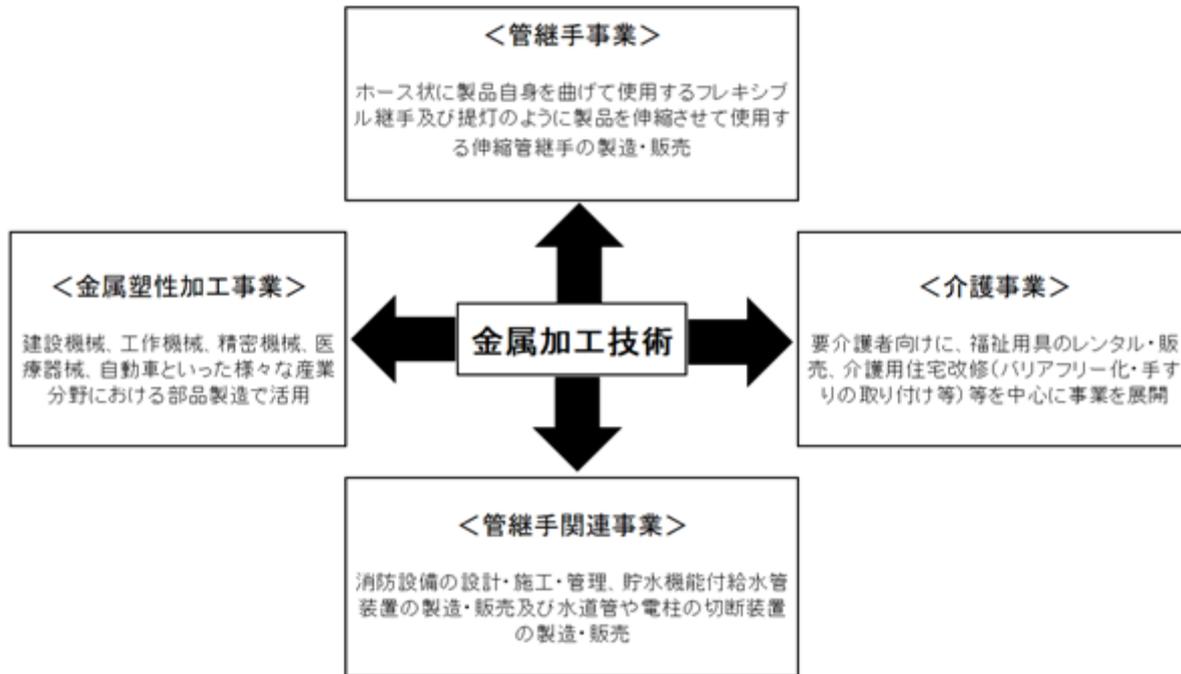
## (申請会社の沿革図)



### 3【事業の内容】

当社グループは経営理念に「従業員の幸せを追求すると共に、価値ある製品づくりに真心で挑み、世界の発展に貢献します。」と掲げており、金属加工技術を中心に新たな事業を生み出し、安全・安心を提供することで、世界をつなぐ“継手”のリーディングカンパニーを目指しております。

当社グループの事業は、金属加工技術を活用し、管継手（かんつぎて）と呼ばれる配管同士の接続部分を製造する管継手事業を中心に、その管継手の活用や、その関連技術の応用分野において、管継手関連事業、金属塑性（そせい）加工事業及び介護事業の4つの事業を展開しております。



当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、当社、連結子会社9社及び関連会社1社より構成されており、当社グループの事業内容及び当社、連結子会社及び関連会社の当該事業にかかる位置付けは次のとおりであります。なお、以下に示す区分はセグメントと同一の区分であります。

#### (1) 管継手事業

管継手とは鉄鋼や樹脂でできた配管等の接続部分を指します。

当社グループの管継手事業では、ホース状に製品自身を曲げて使用するフレキシブル継手及び提灯のように製品を伸縮させて使用する伸縮管継手の製造・販売を行っております。フレキシブル継手及び伸縮管継手は継手自身が可動することから、配管等の屈曲運動や振動等を吸収することが可能であるため、インフラや産業配管に生じる様々な負荷から機器本体と配管を守るために使用される継手で、地震時等に大きく歪曲しても接続部分からの流体の漏洩等を防ぐことができます。本体素材はステンレス鋼で出来ており、ゴム製品やその他の樹脂製品と比較し、高温度性能及び高耐圧性能に優れていることから、様々な配管の“耐震措置”、“熱膨張変位の吸収”、“振動吸収”が可能であり、また近年では“配管作業の省力化”を目的として様々な配管にフレキシブル継手が使用され、人手不足の解消等に寄与しております。当社は配管工事で用いる多様な継手を製品ラインアップとして揃えており、ワンストップで顧客の要望に応えられる体制を構築しております。納入先は建築設備・製鉄設備・プラント設備・造船設備・電力設備・ガス設備・下水道設備等、多岐に渡っております。

フレキシブル継手は諸官公庁が発行する配管工事共通仕様書において各種配管の防振・耐震措置として使用を指定する旨の記述があり、空調設備、衛星設備、消火設備等の各種配管に利用されております。また、当社ではフレキシブル継手の製造技術を生かし、金属製品のみならず食品、医薬、化学分野に向け、耐食性や衛生上の安全を重視したフッ素樹脂製（いわゆるテフロン）のホースの製造・販売及び真空機器関連業務として、主に半導体分野に向け、パーティクルレス（微小な小片、粒子がないこと）や微細化を行う半導体製造装置間の真空工事・ガス工事及び装置の設計・製作・据付等の業務も行っております。

伸縮管継手については、都市ガス、電力、製鉄、石油化学、LNG及びLPGのプラントや運搬船等、広範囲な産業設備で利用されており、用途によっては10メートルを超える大型の配管にも使用されております。また、同製品は電気事業法、ガス事業法、高圧ガス保安法等の各種法規則に基づき製作されるものもあり、製造許認可の対象となる溶接部は高度な品質管理が必要になります。その他には、ライフラインである水道管の継手にも利用されていることから、熱膨張・耐震性への性能を考慮し、漏水に対する安全性、耐久性、環境性をクリアすることが必要で、公益社団法人日本水道協会の認証登録を受けた製品を提供しております。

(管継手製品の例)

フレキシブル継手



真空機器



伸縮管継手



(製品の特徴と主な納入先)

	製品の特徴	主な納入先
フレキシブル継手	主に小口径(10~300mm)のパイプを波づけ加工することで、柔軟性を持たせ配管の「変位吸収」「振動吸収」「作業効率化」に役立つ	高層ビル設備配管、上水道配管、各種産業配管、都市ガス配管
真空機器	半導体分野や医療用関連装置など、微細なごみを嫌うクリーンな配管にするための真空配管などに使用	半導体製造装置、フラットディスクプレーメーカー、医療メーカー、食品製造装置メーカー、高純度ガスメーカー
伸縮管継手	主に大口径(200~1,500mm)のパイプに波づけ加工(注)することで、温度変化による配管の伸縮を吸収する役目を果たす	電力設備、製鉄、石油化学プラント、LNG運搬船等、広範囲な産業設備、水道配管

(注)波づけ加工：真直ぐな管にストローの折れ曲がる箇所のような均一のヒダ、シワを施す工程。

(主な関係会社)

フレキシブル継手	国内においては、当社が製造・販売しております。 海外においては、天津天富軟管工業有限公司及びTF(VIETNAM)CO.,Ltd.が当社より主要材料を調達し、製造した製品・半製品及び部品を当社に供給するとともに、天津天富軟管工業有限公司が、一部、中国国内の取引先に対して、直接、販売をしております。
真空機器	国内においては、当社が製造・販売しております。 海外においては、天孚真空機器軟管(上海)有限公司が、製品及び商品を当社へ供給するとともに、一部、中国国内の取引先に対して、直接、販売をしております。
伸縮管継手	国内においては、当社が製造・販売しております。 海外においては、天津天富軟管工業有限公司が、当社より主要材料を調達し、製造した製品・半製品及び部品を当社に供給するとともに、一部、中国国内の取引先に対して、直接、販売をしております。

## (2)管継手関連事業

管継手関連事業は、消防設備の設計・施工・管理、貯水機能付給水管装置の製造・販売及び水道管や電柱の切断装置の製造・販売を行っております。

消防設備の設計・施工・管理につきましては、消防設備の設計・施工・管理にあわせて、衛生設備・消防設備業者が使用する配管の加工も行っており、配管の加工と設備の工事をセットで請け負うことができることが当事業の特徴となります。

消防設備の設計・施工・管理につきましては、スプリンクラー工事を始め、泡消火・連結送水管、消火設備等の消防施設工事、冷暖房設備工事関係を請け負っております。消火に対するニーズは、年々多様化・大型化・高度化・複雑化している中、長年培ってきた豊富な実績・ノウハウと高い技術力によって、オフィスビル、高層マンション、大型再開発、大型ショッピングセンター、病院等において数多くの施工実績を上げております。配管の加工につきましては、衛生設備・消防設備業者が使用する配管で、現場ごとに違う施工図面を基に、専用ソフトで解析、配管材料、口径、ネジ管、溶接管を選定したうえで加工管を製造し、提供しております。この一連の作業を自動化ラインにしたことで、小ロット多品種要求に的確に答えることができ、かつ量を捌くことでコストの低減を図っております。また、消防設備の施工における現場工数削減のため、配管加工工場ではプレハブ加工を実施しております。

貯水機能付給水管装置の製造・販売につきましては、災害などの断水時に120リットルの飲料水・生活水が確保できる貯水機能付給水管「マルチアクア」を戸建て住宅の標準装備品として大手ハウスメーカーへの販売促進、BCPを目的とした法人事業場への設置、災害時に帰宅困難者の一時避難を目的に同要件を満たす商業施設への設置と3つのターゲットに集中し営業推進を行っております。「マルチアクア」は、水道管に直結して配置するため、災害時に水道本管が断水した場合でも、通常通り蛇口をひねることで、飲用の水質基準を満たした水道水が7

日間使用でき、公益社団法人日本水道協会の認証登録はもとより一般財団法人ベターリビング（1973年2月発足の、BL部品（同法人が認定する、機能・安全性・耐久性などにすぐれた住宅部品）の認定に関する業務を行う団体）から「優良住宅部品認定規程に基づく優良住宅部品」としても認定を受けております。

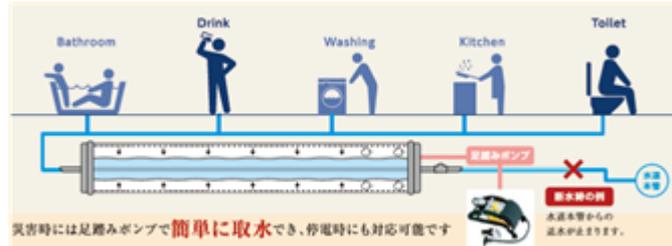
水道管及び電柱の切断装置の製造・販売につきましては、主要な販売先は、水道事業は主に土木・建築機材及び工具などを扱っている商社となり、電柱事業は同様の商社に加え特殊車両メーカーを通じて販売するケースもあります。エンドユーザーとしては、水道管の切断装置は水道及び土木工事事業者が中心であり、電柱の切断装置は通信建設及び電力工事事業者が中心となります。また装置の特徴として、自走しながら電柱を切断します。

また、東京都は都道での電柱新設を原則禁止し、無電柱化を推進する条例を制定しましたが、都道2,200kmのうち無電柱化率は2017年3月末時点で2割前後とされており（出所：東京都建設局道路管理部安全施設課）、今後の工事ニーズの拡大が見込まれます。

（管継手関連製品の例）  
マルチアクア



用途イメージ



（主な関係会社）

消防設備の設計・施工・管理	(株)TFエンジニアリング及びニトックス(株)が、スプリンクラー等の消防設備の設計・施工・管理を行っております。また、(株)TFエンジニアリングは、ニトックス(株)を含む消防設備工事業者から素管の加工業務を受託しております。
貯水機能付給水管装置の製造・販売	(株)アクアリザーブが、貯水機能付給水管装置の製造・販売を行っております。
水道管及び電柱の切断装置の製造・販売	(株)中野製作所が、上水道に用いる鋳鉄管を敷設現場で切断・溝切、接合・解体などの加工作業時の使用機器及び部品、また電柱を自走しながら切断する装置の製造・販売をしております。

(3) 金属塑性（そせい）加工事業

金属塑性加工とは、機械的力により金属を変形させ、力を取り除いた後も変形が残る性質（塑性）を利用して、金属を所定の形状、寸法の製品に成形する手段を言います。この金属塑性加工技術は、建設機械、工作機械、精密機械、医療器械、自動車といった様々な産業分野における部品製造で活用されております。

当社の金属塑性加工事業では、金属管（鉄・ステンレス・アルミ・銅・チタン等）の各種塑性加工品の製造・販売を行っております。主な製品は大手完成車メーカーの1次部品メーカー向け部品となっており、金属管を曲げたり、広げたり、絞ったり、薄くしたり、厚くすることにより、軽量化、材料費の低減及び強度増加等を進めたことで駆動系、操舵系、排気系自動車部品及びオートバイ用エキマニジョイントに採用されるなど、金属塑性技術が評価されてきました。

また、自動車部品以外にも産業機器等部品にも販路を広げており、産業用大型ロボットアームの駆動シャフト並びにバルブボール等を塑性加工・販売しております。

（金属塑性加工製品の例）

自動車用部品  
エキゾーストマニホールド



オートバイ用部品  
エキマニジョイント



産業機器等部品  
大型ロボットアーム用駆動シャフト



(主な関係会社)

金属管の各種塑性加工品の製造・販売	(株)チューブフォーミングが本事業を営んでおります。
-------------------	----------------------------

(4) 介護事業

当社の介護事業では、要介護者向けに、福祉用具のレンタル・販売、介護用住宅改修（バリアフリー化・手すりの取り付け等）、介護用マットレスの洗浄等を中心に事業を展開しております。エンドユーザーは個人であり、主な販売先も個人であります。一部介護福祉施設向けの販売も行っております。

高齢化が一層進む我が国において拡大が予測される介護業界では、政府の「施設介護から在宅介護へ」という転換姿勢に加え、介護の基本は「人と人のつながり」であるという考えのもと、地域密着型の展開が不可欠と考え、店舗展開を強化しております。利用者の自立支援を最優先して、その身体状況や目的、生活スタイルに合わせた商品の選定やアドバイスを行い、利用者の方々のみならず、介護プランを作成するケアマネージャーの方々から信頼を得るサービスを提供しております。また、商品の販売に加え、利用者の方々や実際に介護を行われているご家族などから直接要望や悩みを伺い、プロの目からの知識や経験を生かすことで、従来の汎用な介護用品・福祉用具とは異なる、一歩踏み込んだ機能的なシートやクッション等のオリジナル製品の開発もしております。

(福祉用具の例)

車いす主要商品の例

介助式KL12-38



レボ 延長ブレーキ付

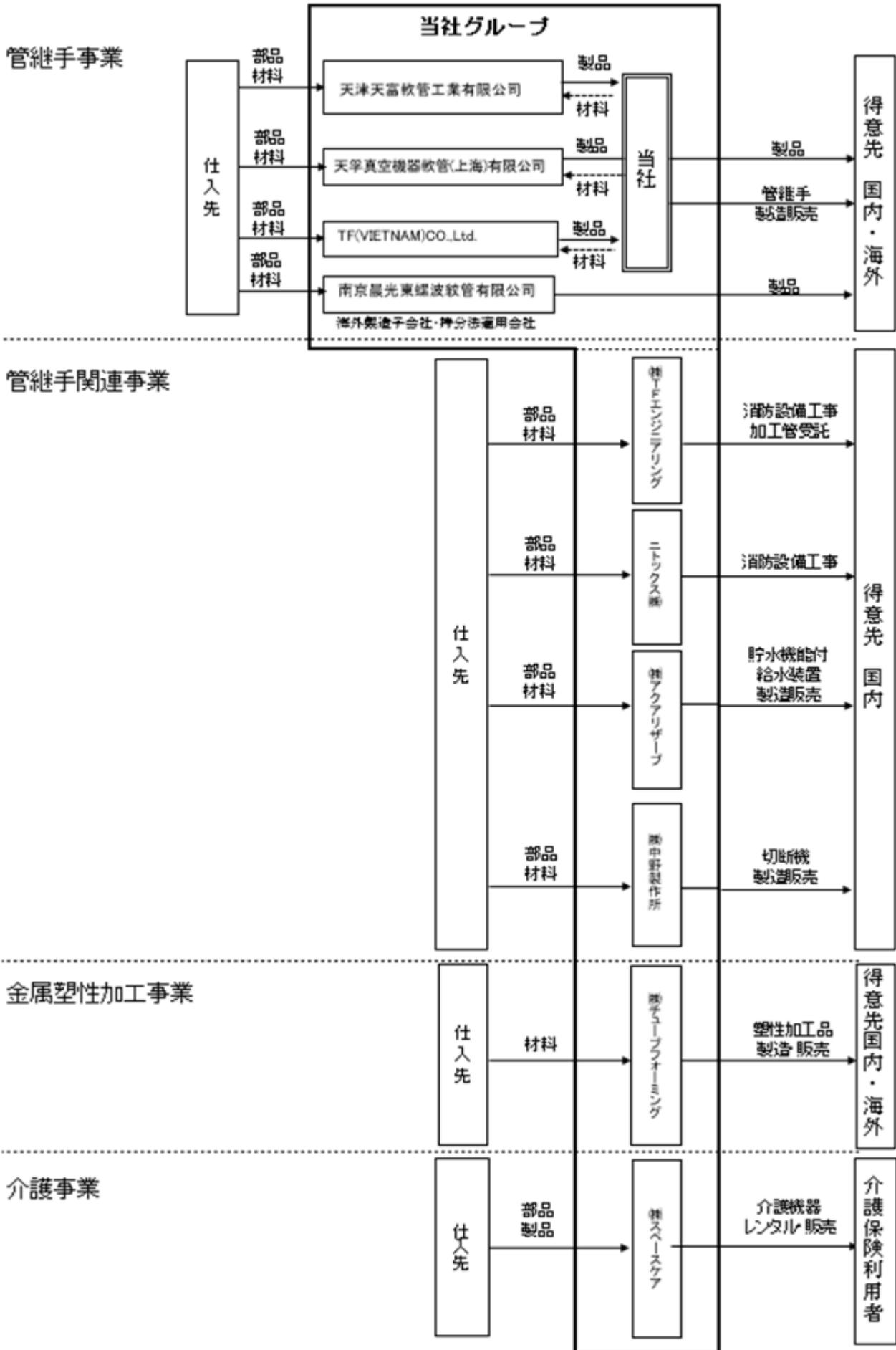


ネットィ



(主な関係会社)

福祉用具のレンタル・販売、介護用住宅改修	(株)スペースケアが本事業を営んでおります。
----------------------	------------------------



4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の所有割合又は被所有割合(%)	関係内容
(連結子会社)					
天津天富軟管工業有限公司 (注)2	中国 天津市	39百万 人民币	管継手事業	83.05	当社向け商品・半製品の製造 当社からの材料仕入 役員の兼任あり
天孚真空機器軟管(上海)有限公司 (注)2	中国 上海市	2,700千 米ドル	管継手事業	100.00	当社向けの商品・半製品の製造 当社からの材料仕入 役員の兼任あり
TF(VIETNAM) CO.,Ltd. (注)2	ベトナム ホーチミン市	4,000千 米ドル	管継手事業	100.00	当社向け商品・半製品の製造 当社からの材料仕入 役員の兼任あり
(株)TFエンジニアリング	千葉県 船橋市	95百万円	管継手関連事業	100.00	当社不動産を本社として賃貸 当社より資金の貸付あり 役員の兼任あり
ニトックス(株) (注)4	神奈川県川崎市 中原区	48百万円	管継手関連事業	100.00	当社不動産を本社として賃貸 当社に対する資金の貸付あり 役員の兼任あり
(株)アクアリザーブ (注)5	東京都 台東区	50百万円	管継手関連事業	100.00	当社不動産を本社として賃貸 当社より資金の貸付あり 役員の兼任あり
(株)中野製作所	埼玉県 さいたま市西区	20百万円	管継手関連事業	100.00	
(株)チューブフォーミング (注)2	神奈川県横浜市 金沢区	100百万円	金属塑性加工事業	100.00	当社に対する資金の貸付あり 役員の兼任あり
(株)スペースケア	千葉県 船橋市	98百万円	介護事業	100.00	当社不動産を営業所として賃貸 当社より資金の貸付あり 役員の兼任あり
(持分法適用関連会社)					
南京晨光東螺波紋管有限公司	中国 江蘇省南京市	6,312千 米ドル	管継手事業	38.00	役員の兼任あり

(注)1. 「主要な事業の内容」欄には、セグメントの名称を記載しております。

2. 特定子会社に該当しております。

3. 有価証券届出書又は有価証券報告書を提出している会社はありません。

4. ニトックス(株)は、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く。)の連結売上高に占める割合が、10%を超えております。

ニトックス(株)	(1) 売上高	3,363,908千円
	(2) 経常利益	621,185千円
	(3) 当期純利益	416,158千円
	(4) 純資産額	721,655千円
	(5) 総資産額	2,936,192千円

5. (株)アクアリザーブは、債務超過の状況にあり、債務超過の額は、2019年12月31日時点で1,335,893千円であります。

## 5【従業員の状況】

### (1) 連結会社の状況

2019年12月31日現在

セグメントの名称	従業員数(人)
管継手事業	559 (80)
管継手関連事業	103 (34)
金属塑性加工事業	91 (12)
介護事業	115 (13)
報告セグメント計	868 (139)
全社(共通)	14 (7)
合計	882 (146)

(注) 1. 従業員数は就業人員(当社グループからグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含む。)であり、臨時雇用者数(パートタイマー、人材会社からの派遣社員、季節工を含む。)は、年間の平均人員を( )外数で記載しております。

2. 全社(共通)として記載されている従業員数は、管理本部に所属しているものであります。

### (2) 提出会社の状況

2019年12月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
267 (87)	43.1	11.7	5,248

セグメントの名称	従業員数(人)
管継手事業	253 (80)
報告セグメント計	253 (80)
全社(共通)	14 (7)
合計	267 (87)

(注) 1. 従業員数は就業人員(当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者を含む。)であり、臨時雇用者数(パートタイマー、人材会社からの派遣社員、季節工を含む。)は、年間の平均人員を( )外数で記載しております。

2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

3. 全社(共通)として記載されている従業員数は、管理本部に所属しているものであります。

### (3) 労働組合の状況

当社グループには、連結子会社である株式会社チューブフォーミングに労働組合が結成されておりますが、その他、当社を含む当社グループには労働組合は結成されておられません。なお、労使関係は円滑に推移しております。

## 第2【事業の状況】

### 1【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中における将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 会社の経営の基本方針

当社及びその企業グループとしての経営の基本方針は次のとおりであります。

##### a. 経営理念

『従業員の幸せを追求すると共に、価値ある製品づくりに真心で挑み、世界の発展に貢献します。』

企業活動の主体である社員の質の向上こそが、当社の基盤です。社員の真の満足は、仕事のやりがいと達成感にあると思われま

す。会社は社員の期待に応えるため、皆がスキルアップできる環境をつくり、意欲を持って仕事に取り組むことができるようサポートしていきます。

また、新たな課題に対しても果敢にチャレンジする社風を築き、いつも精一杯、真心込めて製品の価値の向上に努め、お客様の満足を第一に、ひいては世界中の人々へ喜びと幸せをもたらす事業を追求してまいります。

##### b. 行動指針

「常にスピードを重視します。」

IT技術の進歩により、あらゆるものの価値が急速に変化していく現代。新しい情報をいち早くキャッチし、迅速な意思決定力と実行力で躍動感ある対応を心がけます。

「常にスキルアップに努めます。」

社員一人ひとりが、一日の中で少しでも進歩できるように考えること。そして、会社はそのための環境づくりを心がけます。

「常に先を読んで行動します。」

公共事業費の削減等により、当社グループも既存事業にばかり頼ることはできません。企業として安定した成長を維持するためにも、短期的な視野ではなく、常に5年先、10年先を見据えて行動します。

「常にチャレンジ精神を大切にします。」

批判されることを気にしては、結局何もできません。常に新しいことを考える意識、失敗を恐れず積極的にチャレンジする精神を大切に、社員一人ひとりのやる気に応えます。

「常に技術革新を目指します。」

事業の持続的成長の鍵は、技術革新にあります。既存の製品に満足することなく、常にお客様のニーズをくみ、新しい技術の開発に取り組みます。

「常に地球環境を大切にします。」

地球の温暖化は、この星に生きるすべての生命にとって切実な問題です。当社グループも地球の一市民として、環境保全活動を重要課題として取り組みます。

#### (2) 中長期的な会社の経営戦略

a. 常に「新しいビジネスに挑戦しているか」「常識の打破に挑戦しているか」「高い理想の追求を行ったか」を念頭に置いて、次の4つのキーワードをベースに更なる成長を目指してまいります。

Global : フレキシブル継手の世界展開を視野にいれた戦略への転換

Technology : 「安心安全をつなぐ」をコンセプトに新たな付加価値を提供

Synergy : 製造業を中心としたビジネスの多層化による付加価値の追求

System : 営業・製造業務の全体像からのシステム構築

b. 度重なる災害による防災意識の高まり、オリンピック需要とその後の安定した建設市場と人手不足、国内消防体制のグローバルレベルでの遅れ、ロボティクス等新テクノロジー分野の台頭、老朽化した社会インフラを長寿化するニーズが増えている中、「国内外の勝てる市場」を発掘し、その市場への集中投資により成長を実現することを当社グループの経営戦略としております。また、省エネや革新的な環境対策を進めることは重要な企業の役割と考え、SDGsへも積極的に取り組んでまいります。

c. その目標を達成するため、収益力、グループ力の強化、人材育成を通じての組織の活性化、コンプライアンスへの取組み強化を中心とする中期経営計画を策定し、持続的な企業価値の向上を目指してまいります。

具体的には、フレキシブル継手の世界展開を視野に入れた戦略を検討してまいります。生産性を高め1人当りの売上高の増加を目指します。海外生産拠点機能の天津工場からベトナム工場への移管、国内工場にて成果を挙げている生産性向上プロジェクトを、海外工場に本格的に展開していきます。生産ラインの見直しや、原価（材料費・労務費・経費・外注費）や生産拠点ポートフォリオの管理水準向上を図ってまいります。グローバルシステム導入による原価・在庫管理の高度化による徹底した効率化を図り、管理会計体系の整理を実施して、DAY決算が出来る様にシステムを構築してまいります。新人事制度の導入により、部門別及び個人別の目標を明確にし、部門の成果並びに個人の能力及びパフォーマンスを高めてまいります。新たな研修制度の導入で高度な人材育成も行ってまいります。内部統制システムの基本方針に沿って、当社グループの内部管理体制を整備（内部統制システムの具体化）し、実効性のあるガバナンス体制の実現に取り組んでまいります。大規模な自然災害による被害を最小限にとどめるため、BCP対応マニュアルを策定して、ケース別に対応出来る様に準備してまいります。併せて当社グループの生産体制を見直し、改編してまいります。

### (3) 目標とする経営指標

当社グループは2021年を最終年度とする3ヶ年中期経営計画を策定しております。その中で、企業価値向上のために、財務基盤を強化し事業投資に対する適正な評価と最適な資本構成を実現し、徹底した経営効率の改善により、資本効率を更に高め、経営の安定性及び株主還元を重視することで、ROE及び連結配当性向の向上に努めてまいります。

### (4) 経営環境及び対処すべき課題

当社グループの各事業を取り巻く経営環境及び対処すべき課題は、以下のとおりであります。

#### a. 管継手事業

(a) 管継手事業は、景気変動や国内外の設備投資の動向、特に建設投資の動向に影響を受けることから、事業のグローバル展開と開発、製造、営業の一貫性による既存事業の強化を課題として認識し、以下の対応を行ってまいります。

- ・フレキシブル継手については、グローバルな生産拠点（ベトナム工場）への投資やグローバルシステムへの投資を通じて原価低減を図り、高付加価値製品のシェアアップを目指します。
- ・真の空機器については、半導体業界を中心に短期的な調整局面はあるものの、中長期的には5G等の本格的な普及の中で拡大するものと想定しており、当社グループもグローバルな製造拠点をベースに今後の市場拡大に沿って成長を図ります。
- ・天津を販売拠点として強化し、中国本土にて営業展開を図ってまいります。
- ・2016年1月に拠点軸から顧客軸・プロダクト軸の組織に改編いたしました。これにより、製販一体による販売力及びマーケティング力の一層の強化を図ります。
- ・製造部門に対する積極的な設備投資の実行及びIT化の推進により生産性を向上させ、納期の短縮化及び品質管理の徹底を図ります。
- ・2016年度に独自技術を活かして主力商品（回転ニップル構造によるスプリンクラーフレキシブル継手）の開発に成功しました。本商品を本格的に販売開始し、収益基盤の拡大に努めます。
- ・2018年12月に導入した5,000トン大型プレスによるマーケットの拡大を図り、溶接技術、加工技術を活用した新たな製品の販売を促進します。
- ・2018年12月に屋内消火栓設備と給水管とを接続するフレキシブル継手を開発しました。特別な接続構造で、屋内消火栓メーカーと当社との共同出願としています。拡販に努めていきます。
- ・2019年8月 主力製品であるスプリンクラーフレキシブル継手の安全性と施工性を高めた製品を市場に投入しました。安全性を重視した製品はこの製品だけで、消防推奨製品の指定を頂いています。安全性を全面に出し他社との差別化を図ると共にシェア拡大に努めます。
- ・水道管老朽化対策において施工上のメリットがあるSDF工法（注）をテーマに、フレキシブル継手の販売を促進します。

#### (注) SDF工法

老朽化した水道本管を交換せず、補修、再生する工法の一つで、従来の既設管内挿入工法では施工できない曲がり管を含む本管にステンレス製のフレキシブル継手を引き込み、管路更新工事を行う工法。軌道下や河川下の伏せ越し配管、交通量が多い道路の横断など開削が困難な場所に敷設されている。

- ・営業体制全体としては、コールセンター、ネットのシェアアップにより効率化を図り、商品・製品構成を基にした価格戦略でフレキシブル継手市場でのシェア向上を目指します。また、フレキシブル継手、伸縮管継手市場でのトップシェア（2018年度。出所：矢野経済研究所による当社宛の「2019年度管継手市場動向調査」）の維持に努めます。

(b) 無駄の見える化・排除、組織の活性化を課題として認識し、以下の対応を行ってまいります。

- ・徹底したコストダウンを推進するため、組織風土を改革し、組織の活性化に取り組んでまいります。
- ・内外の工場において、ロボット、自動溶接機等への積極的投資により生産性向上を図ってまいります。
- ・顧客ニーズを吸収し、製造本部は技術本部と連携し、他社比優位性・付加価値のある製品を生み出してまいります。

#### b. 管継手関連事業

(a) 管継手関連事業は、管継手事業と同様の経営環境にあることから、事業ポートフォリオを拡大してまいりました。現在は、管継手関連事業から新たなセグメント『防災事業』を構築し、(株)TFエンジニアリング、(株)アクアリザーブをテクノフレックスグループにおける成長事業として位置づけ、売上拡大を図ることと、グループのシナジーを活用した新規事業の創造を課題として認識し、以下の対応を行ってまいります。

- ・事業の立上げから運営まで、当社が財務及び人材面を積極的にバックアップし、新規事業を創造してまいります。
- ・(株)TFエンジニアリングは、消防設備工事業の請負シェアを増やすことで、資材の発注権限も取得し、スプリングラダーSPの拡販にも繋げ、売上増を図ってまいります。また、TF(VIETNAM)CO., Ltd. に実習生候補者の日本語と実技を中心とした養成システムを構築し、将来、工事業等で活躍する職人やいは監督者を育成してまいります。
- ・(株)アクアリザーブを通じ、防災ニーズを喚起し、貯水機能付給水管事業（新規事業）の新市場を創造してまいります。「マルチアクア」（貯水機能付給水管）のターゲットを住宅メーカー、建材・管工材商社、BCP、帰宅困難者向け一次施設、協業提携先の5つに絞り、集中営業を行い売上増を図ります。なお、住宅メーカーに関しては、標準化導入を目指してまいります。

(b) M & Aによる事業開拓を課題として認識し、以下の対応を行ってまいります。

- ・製工一貫体制を推進するため、2017年2月に消防設備工事会社、ニトックス(株)の株式取得により子会社化し、2018年1月には消防設備工事の子会社(株)防災企画を(株)TFエンジニアリングと併合させ存続会社を(株)TFエンジニアリングとし、2社体制に見直しました。これによりユーザーである工事業者との接点を一層拡大させることが可能となり、ユーザーの潜在ニーズ発掘及び管継手事業の研究・技術開発との連携強化を図ってまいります。
- ・その他の新たな成長分野の開拓または既存事業の規模拡大のため、M & Aを積極的に活用してまいります。

#### c. 金属塑性加工事業

金属塑性加工事業は、主な販売先が自動車業界であり、自動車業界の景気動向の影響を受けやすい経営環境にあることから、電気自動車化の加速により、エンジンや排気系で使用される部材が減少する可能性や、国内の技術者、SE等の人材不足によるビジネスチャンスの喪失、中国へ進出する場合のカントリーリスク等々のリスクと収益性の向上、コスト削減を課題として認識し、以下の対応を行ってまいります。

- ・現在は自動車業界中心の受託生産が事業の中心となっておりますが、独自の金属塑性加工技術を活かして、ロボット等の成長分野への進出を本格化させることによって、事業領域の拡大と、収益性の向上を推進してまいります。なお、当社グループはロボットアーム用の駆動軸の部品を国内の主要大型産業ロボットメーカーに納入しております。
- ・取引先のグローバル化への対応及び製造コストの削減を図るため、当社グループの海外生産拠点の活用を推進してまいります。
- ・国内工場の設備投資・海外工場活用の検討、新規試作納入品の量産立上げ確度を上げ拡販に繋げてまいります。
- ・自動車用アルミ部材の研究開発を促進してまいります。

#### d. 介護事業

介護福祉用具レンタル市場規模は年々拡大傾向にあるものの、レンタル・販売価格については法令等により制約され、横ばいから下降傾向にあります。介護保険制度の改正による、利用者の自己負担の増加を起因として、福祉用具の利用を控えることによるレンタル・販売減少で事業環境の悪化に対応した事業展開をすることを課題として認識しております。在宅の利用者（要介護者）が希望する生活を営むための支援機器・用品へ、どのように対応していくかがポイントと考え、以下の対応を行ってまいります。

- ・取引先の選択と集中、OEMによる付加価値の高い独自商品の開発及び品揃えの強化とコストダウン、また、中小の事業者をM & Aすることにより、事業規模を拡大してまいります。
- ・ダイレクトマーケティング部門を新設し、B2B、B2C事業を推進し、販売チャネルの多様化を図ります。
- ・地域一番店に向けて法令遵守と定期点検で信用を構築してまいります。
- ・OEMによる自社商品の製造・販売、居宅介護支援事業の拡大による利用者数の増加を背景にしたヘルパー事業への展開、福祉用具のメンテナンスや洗浄/保管といった受託事業への展開及び障害者就労支援事業への展

開等を視野に入れ、福祉用具の製造小売から地域レンタルまで行う、一気通貫の新ビジネスモデルの構築に注力してまいります。

## 2【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した当社グループの事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある主な事項には、以下のものがあり、必ずしもリスク要因に該当しない事項についても、投資者の投資判断上、重要であると考えられる事項については、投資者に対する積極的な情報開示の観点から開示しております。これらのリスクについては、その発生可能性を認識したうえで、発生回避及び発生した場合の対応に努める方針であります。

なお、文中の将来に関するリスクについては、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであり、将来において発生のおそれのあるすべての事項を網羅するわけではありません。

### (1) 市場の変動に係るリスク

当社グループの主要製品である管継手及び同関連製品の売上は、景気変動や国内外の設備投資の動向、特に建設投資の動向に影響を受けます。当社グループでは管継手事業においては産業別の需要動向に応じて製品等の供給を行い、その関連分野としての管継手関連事業、金属塑性加工事業、介護事業という成長マーケットを含んだ事業へと事業ポートフォリオを拡大してまいりましたが、想定以上に関連業界の設備投資が落ち込んだ場合、当社グループの業績または財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

### (2) 海外生産に係るリスク

当社グループは、生産拠点の集中リスクを回避するため、グローバル（中国、ベトナム）な生産体制を展開しておりますが、海外生産におきましては、イ．予期しない法律または規制の変更、ロ．人件費・物価等の大幅な上昇、ハ．ストライキ等による生産活動への支障、ニ．その他の経済的、社会的及び政治的混乱等のリスクが潜在しております。当社グループは、それらの法規制、社会情勢の変化等の情報収集を行い、変化への対応、リスクの回避に努めておりますが、予期せぬ事象が発生した場合、当社グループの業績または財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

### (3) 為替、金利の変動に係るリスク

当社グループは、海外子会社3社及び当社において、外貨（中国元、アメリカドル）建て資産及び負債があります。当社グループは取締役会によって定めた方針に基づき、為替変動等のリスクヘッジ対策を講じてまいりますが、予期せぬ事象が発生した場合、当社グループの業績または財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

また、当社グループは、金融機関からの借入により資金調達を行っておりますが、金利が上昇した場合、支払利息が増加し、当社グループの業績または財務状況に影響を受けます。

### (4) 原材料価格の変動に係るリスク

当社グループは、主要原材料としてステンレス鋼を使用しております。ステンレス鋼は市況商品であることからその価格が上昇した場合、製品価格に反映させることを基本方針としておりますが、急騰により製品価格への転嫁が遅れた場合、当社グループの業績または財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

### (5) 製品の欠陥に係るリスク

当社グループは、ISO9001に準拠して製品の品質管理を行っておりますが、全ての製品について欠陥が発生しないという保証はありません。そのため、欠陥に伴う製造物賠償責任リスクを軽減するため、PL保険に加入しておりますが、保険でカバーできない多額のコストが発生した場合、当社グループの業績または財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

### (6) 棚卸資産の破棄、評価損に係るリスク

当社グループは、在庫管理に充分留意しておりますが、市場動向、技術革新、製品のライフサイクル等の急激な変化により、製品の評価を見直す必要が発生し、棚卸資産の廃棄または評価損を計上する場合、当社グループの業績または財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

(7) 資産の減損に係るリスク

当社グループは、固定資産の減損に係る会計基準を適用しております。将来、当社グループが保有する固定資産について、経営環境の著しい悪化等による収益性の低下や市場価格の下落等により、減損損失が発生した場合には、当社グループの業績または財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

(8) 知的財産権に係るリスク

当社グループは、知的財産管理規程にて知的財産保護を定めるとともに、知的財産に係るトラブルを回避するため事前調査を行っております。また、知的財産の保護やその侵害に関するリスクについては、リスク管理項目の対象としリスク管理委員会で対応策を検討し、必要に応じて弁理士に相談した上で、早急且つ適切な対応ができるよう努めております。しかしながら万が一、訴訟等に巻き込まれた場合、当社グループの業績または財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

(9) 大規模災害等に係るリスク

当社グループは、生産拠点の分散化等により、一部の地域で大規模災害が生じた場合においても一定の製商品の供給を継続できる体制の構築に努めておりますが、複数の生産拠点地区において、大規模自然災害または火災等の事故が発生し生産設備及び物流機能が被害を受け、操業中止または出荷遅延等が生じた場合、当社グループの業績または財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

(10) 情報管理に係るリスク

当社グループは、顧客の個人情報並びに顧客の技術、製造、販売及び営業に関する機密情報をさまざまな形態にて保有し、それらの情報を保護するため、適切なセキュリティ対策を講じておりますが、万が一、情報漏洩が発生した場合、法的責任を負う可能性がある他、当社グループの業績または財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

(11) 保有資産の価値下落によるリスク

当社グループでは、保有資産価値の維持、保全に努めておりますが、保有する不動産や有価証券等の時価が著しく下落した場合、当社グループの業績または財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

(12) 製品競争力に係るリスク

当社グループは、他社製品との差別化を図るため、製品・技術等に関連する特許等の知的財産権を取得し、または海外企業との技術提携によるライセンスの供与を受けておりますが、海外の特定地域において、当社グループの模倣製品が製造・販売された場合、またはライセンス契約の更新が困難となった場合、当社グループの業績または財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

(13) M & Aに係るリスク

当社グループは、当社グループの事業に関連する有力な技術等を保有する会社の買収によって、事業の拡大と成長を推進してまいりました。今後も、事業の成長を加速させるために有効と考えられる場合や、既存事業との大きな相乗効果が見込める場合などに、積極的にM & Aを検討していく方針です。

M & Aの実施に際しては、業界動向等を慎重に見定めるとともに、買収対象企業に対して十分なデューデリジェンスを行ったうえで実施する予定であります。市場環境の急激な変化や、買収企業の競争力の低下等、予期せぬ事態が生じた場合には、投下資本の毀損が生じ、当社グループの業績または財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

(14) 訴訟等に係るリスク

当社グループは、内部統制システムの整備・運用を適切に行っておりますが、取引先や第三者との間で予期せぬトラブルにより損害賠償請求等が発生し、訴訟等に至った場合、当社グループの業績または財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

(15) 法令及び公的規制に係るリスク

当社グループは、事業を展開する国内及び海外の全ての地域において、建設業法や介護保険法等、さまざまな法令及び公的規制の適用を受けており、これらの法令及び公的規制を遵守するため、内部統制の整備を行っておりますが、万が一、遵守していないと判断された場合、当社グループの業績または財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

(16) ストック・オプションの行使等による株式価値希薄化について

当社は、当社及びグループ会社の役職員に対し、長期的な企業価値向上に対するインセンティブとしてストック・オプションを付与しているほか、今後も優秀な人材確保のためストック・オプションを発行する可能性があります。現在付与されている、または今後付与するストックオプションの行使が行われた場合、発行済株式数が増加し、1株当たりの株式価値は希薄化し、株価形成に影響を与える可能性があります。2019年12月末現在、これらのストック・オプションによる潜在株式数は156,800株であり、発行済株式総数21,360,000株の0.73%に相当しております。

### 3【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 2018年2月16日）を当連結会計年度の期首から適用しており、財政状態に関する説明については、当該会計基準を遡及適用後の数値で前連結会計年度との比較分析を行っております。

#### (1) 経営成績等の状況の概要

##### 財政状態の状況

当連結会計年度末の総資産は28,612百万円となり、前連結会計年度末に比べ、89百万円減少しております。流動資産は14,710百万円となり、受取手形及び売掛金が873百万円減少し、未成工事支出金が496百万円増加したことを主な要因として前連結会計年度末に比べ223百万円減少しております。固定資産は13,902百万円となり、建物及び構築物が124百万円、その他無形固定資産が189百万円増加し、機械装置及び運搬具が104百万円減少したことを主な要因として前連結会計年度末に比べ134百万円増加しております。

当連結会計年度末の負債は9,926百万円となり、前連結会計年度末に比べ、1,442百万円減少しております。流動負債は7,043百万円となり、1年内返済予定の長期借入金が705百万円、訴訟損失引当金が440百万円減少し、未成工事受入金が462百万円増加したことを主な要因として前連結会計年度末に比べ、772百万円減少しております。固定負債は2,882百万円となり、長期借入金が556百万円減少したことを主な要因として前連結会計年度末に比べ670百万円減少しております。

当連結会計年度末の純資産は18,686百万円となり、主に親会社株主に帰属する当期純利益1,696百万円を計上したこと等が要因で利益剰余金が1,194百万円増加したこと等により前連結会計年度末に比べ1,352百万円増加しております。

この結果、自己資本比率は、59.5%から64.4%となりました。

##### 経営成績の状況

当連結会計年度における世界経済は、通商問題や中国経済の減速など不透明な状況で推移いたしました。日本経済は、輸出は引き続き弱さがみられますが、企業収益や雇用環境に改善が見られ、景気は緩やかに回復しました。

このような国内外の経済環境のもと、当連結会計年度の経営成績は、売上高18,999百万円(前期比4.3%減)、営業利益2,342百万円(前期比8.8%減)、経常利益2,437百万円(前期比10.4%減)となりました。

特別利益として受取損害賠償金170百万円、投資有価証券売却益32百万円を計上したこと等から、親会社株主に帰属する当期純利益は1,696百万円(前期比27.2%増)となりました。

各セグメントの経営成績については、以下のとおりであります。

##### (管継手事業)

伸縮管継手関連製品の売上は増加しましたが、真空機器の売上は半導体関連の需要が落ち込んだため、減少しました。

その結果、当事業の売上高は10,962百万円(前期比9.9%減)、セグメント利益は2,092百万円(前期比17.4%減)となりました。

##### (管継手関連事業)

消防設備工事、加工管製作及び貯水機能付給水管装置の売上が増加しました。

その結果、当事業の売上高は4,393百万円(前期比24.5%増)、セグメント利益は579百万円(前期比224.7%増)となりました。

##### (金属塑性加工事業)

産業機器等部品の売上は前年並みでしたが、輸送機器部品の売上は減少しました。

その結果、当事業の売上高は1,866百万円(前期比23.6%減)、セグメント損失は10百万円(前期は、142百万円のセグメント利益)となりました。

(介護事業)

介護用住宅改修の売上は減少しましたが、福祉用具のレンタル及び販売の売上は増加しました。

その結果、当事業の売上高は1,678百万円(前期比3.6%増)、セグメント利益は189百万円(前期比9.2%増)となりました。

(その他)

不動産賃貸事業の売上は前年並みでした。

その結果、当事業の売上高は98百万円(前期比1.4%増)、セグメント利益は30百万円(前期比38.6%増)となりました。

キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、4,227百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、2,824百万円となりました。これは主に税金等調整前当期純利益2,623百万円、売上債権の減少862百万円により資金が増加したものの、法人税等の支払額940百万円により資金が減少したことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、959百万円となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出912百万円により資金が減少したことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、1,686百万円となりました。これは主に長期借入金の返済による支出1,262百万円、配当金の支払額502百万円により資金が減少したことによるものであります。

生産、受注及び販売の実績

a. 生産実績

当連結会計年度の生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)	
	生産高(千円)	前年同期比(%)
管継手事業	5,863,115	4.1
管継手関連事業	464,197	47.9
金属塑性加工事業	1,492,212	16.0
合計	7,819,525	5.8

- (注) 1. 金額は製造原価により表示しております。  
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。  
3. セグメント間の取引については相殺消去しております。  
4. 介護事業は生産活動を行っておりません。

b. 受注実績

当連結会計年度の受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)			
	受注高 (千円)	前年同期比 (%)	受注残高 (千円)	前年同期比 (%)
管継手事業	5,625,141	5.2	1,500,017	3.2
管継手関連事業	1,600,906	42.0	5,751,820	26.9
合計	7,226,048	16.9	7,251,837	23.0

- (注) 1. 管継手関連事業は、消防設備の設計、施工、管理の金額となっております。その他については、受注生産を行っておりません。
2. 介護事業は、受注生産を行っておりません。
3. 金属塑性加工事業は、各納入先より生産計画の提示を受け、これに基づき生産能力を勘案して生産計画を立てており、見込生産であります。
4. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

c. 販売実績

当連結会計年度の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)	
	販売高(千円)	前年同期比(%)
管継手事業	10,962,633	9.9
管継手関連事業	4,393,364	24.5
金属塑性加工事業	1,866,158	23.6
介護事業	1,678,770	3.6
その他	98,834	1.4
合計	18,999,763	4.3

- (注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
3. 主要顧客(総販売実績に対する割合が10%以上)に該当する相手先はありません。

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末において判断したものであります。

重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められる会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表の作成にあたり、見積りが必要な事項につきましては、会計基準の範囲内にて合理的な基準に基づき、会計上の見積りを行っております。

詳細につきましては、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載しております。

当連結会計年度の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

当社グループの経営成績等は、「(1) 経営成績等の状況の概要 財政状態の状況及び 経営成績の状況」に記載のとおりであります。

資本の財源及び資金の流動性に係る情報

当社グループの資本の財源及び資金の流動性については、運転資金需要のうち主なものは原材料の仕入等の製造費用や販売費及び一般管理費等であり、投資等の資金需要は、設備投資等によるものであります。

これらの資金につきましては、営業活動によるキャッシュ・フローのほか金融機関からの借入により必要な資金を調達しております。

経営方針・経営戦略、経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等

経営方針・経営戦略、経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等については、「1 経営方針、経営環境及び対処すべき課題等 (3) 目標とする経営指標」に記載のとおりであります。経営指標については適宜各種会議体において共有され、必要に応じて経営環境、財政状態及び業界環境等を総合的に勘案したうえで、対応策の検討を行い、必要な施策をタイムリーに実施してまいります。

なお、当社グループは目標とする経営指標等として、ROE及び連結配当性向を掲げております。ROEは目標を10%以上にしており、2019年12月期におけるROEは9.6%となっております。連結配当性向は40%以上を目標としており、2019年12月期における連結配当性向は40.2%となっております。今後、企業価値向上のために、財務基盤を強化し事業投資に対する適正な評価と最適な資本構成を実現し、徹底した経営効率の改善により、資本効率を更に高め、経営の安定性及び株主還元を重視してまいります。しかしながら、これらの経営指標の目標数値においては、様々なリスクや将来の経済状況の変化等の不確実性を有しており、その達成を保証するものではありません。

#### 4【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

#### 5【研究開発活動】

当社グループは、「顧客により付加価値の高いものをより安価に提供すること」を研究開発の基本方針として、さまざまな角度から新製品の開発並びにその製造設備及び製造手法の開発に取り組んでおります。

管継手事業のマーケットにおいては、競争プレイヤーは少なく、技術革新も盛んではないため、既存マーケットは顧客ニーズ対応のための研究開発となり、既存マーケットの拡大のため、加工素材の範囲拡大や海外規格の認証取得に関する研究開発を中心に行っております。

管継手関連事業においては、防災ニーズの高まりを背景に需要創造型の商品開発を中心に行っております。

金属塑性加工事業においては、金属塑性加工技術を新たな産業分野へ応用するための研究開発を中心に行っております。

当連結会計年度におけるグループ全体の研究開発費は219,407千円であります。

当連結会計年度における各セグメント別の研究の目的、研究成果及び研究開発費は次のとおりであります。

##### (1) 管継手事業

マーケット拡大のため、アルミ複合管の改良、断層用鋼管ベローズの研究開発、新型の防振継手の開発等を行い、研究開発費は147,076千円となりました。

##### (2) 管継手関連事業

(株)アクアリザーブで開発中の貯水機能付給水管装置の研究開発を継続した結果、研究開発費を69,834千円計上しました。

##### (3) 金属塑性加工事業

金属塑性加工技術を新たな産業分野へ応用するための研究開発を継続しており、金属塑性加工の新技術の開発に係る研究開発費は1,910千円であります。

##### (4) 介護事業

新商品の開発に係る研究開発費は586千円であります。

### 第3【設備の状況】

#### 1【設備投資等の概要】

当連結会計年度の設備投資につきまして、新製品の開発、生産能力の増強等の生産設備への投資等を行い、総額869,998千円の設備投資を実施しております。

なお、重要な設備の除却又は売却等はありません。

セグメントごとの設備投資については次のとおりであります。

##### (1) 管継手事業

当セグメントにおきましては、新製品の開発、生産能力増強等のため、伸縮管継手の生産設備を中心としてとして投資を行った結果、設備投資金額は467,079千円となりました。

##### (2) 管継手関連事業

当セグメントにおきましては、消防設備工事事業を中心に投資を行った結果、設備投資金額は21,126千円となりました。

##### (3) 金属塑性加工事業

当セグメントにおきましては、工場増設を中心として投資を行った結果、設備投資金額は150,021千円となりました。

##### (4) 介護事業

当セグメントにおきましては、レンタル事業関連の投資を行った結果、設備投資金額は18,147千円となりました。

##### (5) 全社

当セグメントにおきましては、基幹システム構築費用として投資を行った結果、設備投資金額は213,623千円となりました。

## 2【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、次のとおりであります。

### (1) 提出会社

2019年12月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額					従業員数 (人)
			建物及び構 築物 (千円)	機械装置及 び運搬具 (千円)	土地 (千円) (面積千㎡)	その他 (千円)	合計 (千円)	
本社 (東京都台東区)	管継手事業及 び全社	営業所及び管 理業務設備	1,087,185	10,585	1,030,283 (0.55)	12,309	2,140,363	62(14)
千葉工場 (千葉県船橋市)	管継手事業	生産設備	857,458	58,516	754,498 (11.90)	5,300	1,675,773	50(18)
熊本工場 (熊本県菊池郡大津町)	管継手事業	生産設備	506,302	56,298	310,988 (29.14)	13,923	887,513	59(22)
新潟工場 (新潟県村上市)	管継手事業	生産設備	167,207	364,116	560,216 (14.86)	4,493	1,096,034	60(17)
京都工場 (京都府相楽郡精華町)	管継手事業	生産設備	240,956	14,921	208,466 (5.07)	36,515	500,859	10(2)

### (2) 国内子会社

2019年12月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額					従業員数 (人)
				建物及び構 築物 (千円)	機械装置及 び運搬具 (千円)	土地 (千円) (面積千㎡)	その他 (千円)	合計 (千円)	
(株)スペース ア	本社及び営業 所 (千葉県船橋 市)	介護事業	管理業務設備 及び営業所	246,152	196	- (-)	775	247,123	33(4)
(株)チューブ フォーミング	本社及び工場 (神奈川県横 浜市金沢区)	金属塑性加工 事業	生産設備及び 管理業務設備	23,906	63,866	558,274 (6.59)	13,557	659,604	47(3)
	工場 (静岡県菊川 市)	金属塑性加工 事業	生産設備	288,778	165,331	102,960 (10.25)	4,313	561,382	26(6)
	工場 (長野県伊那 市)	金属塑性加工 事業	生産設備	71,836	22,214	268,135 (23.70)	5,843	368,030	18(2)
(株)アクアリ ザーブ	工場 (静岡県袋井 市)	管継手関連事 業	生産設備	120,735	416	- (-)	500	121,652	15(2)

(3) 在外子会社

2019年12月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額					従業員数 (人)
				建物及び構 築物 (千円)	機械装置及 び運搬具 (千円)	土地 (千円) (面積千㎡)	その他 (千円)	合計 (千円)	
天津天富軟管 工業有限公司	本社及び工場 (中国天津 市)	管継手事業	生産設備	234,281	84,314	- (-)	12,527	331,123	151(0)
天孚真空機器 軟管(上海) 有限公司	本社及び工場 (中国上海 市)	管継手事業	生産設備	121,208	24,383	- (-)	2,293	147,885	29(0)
TF(VIETNAM) CO.,Ltd.	本社及び工場 (ベトナム ホーチミン 市)	管継手事業	生産設備	160,772	141,288	- (-)	158,124	460,185	126(0)

- (注) 1. 上記の金額は連結上の未実現損益を消去しております。  
 2. 土地、建物には全面時価評価法による評価差額が含まれております。  
 3. 従業員数の( )は、臨時雇用者数の年間平均人員を外書しております。  
 4. 上記の金額には消費税等は含まれておりません。  
 5. 帳簿価額の「その他」は主に工具、器具及び備品、建設仮勘定であります。  
 6. 主要な設備のうちに、連結会社以外の者から賃借している設備若しくは連結会社以外への者へ賃貸している設備はありません。  
 7. 現在休止中の主要な設備はありません。

### 3【設備の新設、除却等の計画】

#### (1) 重要な設備の新設

当社グループの設備投資については、景気予測、業界動向、投資効率等を総合的に勘案して策定しております。設備計画は原則的に連結会社各社が個別に策定しておりますが、計画策定に当たっては提出会社を中心に調整を図っております。なお、当連結会計年度末における重要な設備の新設計画は以下のとおりであります。

##### 提出会社

会社名 事業所名	所在地	セグメントの 名称	設備の内容	投資予定金額		資金調達方 法	着手及び完了予定年月		完成後の増 加能力
				総額 (千円)	既支払額 (千円)		着手	完了	
当社 各事業所	東京都 台東区他	管継手事業	基幹 システム	300,000	234,642	自己資金	2018年9月	2020年4月	(注)2
当社 神林工場他	新潟県 村上市	管継手事業	機械装置 建物改修他	149,894	-	自己資金	2020年1月	2020年12月	(注)2

##### 国内子会社

会社名 事業所名	所在地	セグメントの 名称	設備の内容	投資予定金額		資金調達方 法	着手及び完了予定年月		完成後の増 加能力
				総額 (千円)	既支払額 (千円)		着手	完了	
(株)チューブ フォーミング 静岡工場他	静岡県 菊川市他	金属塑性加工 事業	機械装置他	85,227	-	自己資金	2020年1月	2020年12月	(注)2
(株)スペースケ ア	千葉県 船橋市	介護事業	基幹 システム	40,000	-	自己資金	2019年7月	2020年4月	(注)2

##### 海外子会社

会社名 事業所名	所在地	セグメントの 名称	設備の内容	投資予定金額		資金調達方 法	着手及び完了予定年月		完成後の増 加能力
				総額 (千円)	既支払額 (千円)		着手	完了	
TF(VIETNAM) CO.,Ltd.	ベトナム ホーチミン市	管継手事業	建物 機械装置	613,000	157,612	自己株式 処分資金 及び自己資 金	2019年12月	2020年8月	(注)2

(注)1. 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

2. 完成後の増加能力については、計数的把握が困難であるため、記載を省略しております。

#### (2) 重要な設備の除却等

該当事項はありません。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	40,000,000
計	40,000,000

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (2019年12月31日)	提出日現在発行数(株) (2020年3月30日)	上場金融商品取引所名又は 登録認可金融商品取引 業協会名	内容
普通株式	21,360,000	21,360,000	東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数 100株
計	21,360,000	21,360,000	-	-

(注) 2019年12月10日に東京証券取引所市場第二部に上場しております。

#### (2)【新株予約権等の状況】

##### 【ストック・オプション制度の内容】

決議年月日	2017年7月18日	2017年12月15日
付与対象者の区分及び人数(名)	当社取締役 5 当社管理職 43 当社従業員 168 子会社取締役 9 子会社管理職 47 子会社従業員 1	当社管理職 1 子会社取締役 2 子会社管理職 10 子会社従業員 2
新株予約権の数(個)	1,476 [ 1,446 ]	92 [ 92 ]
新株予約権の目的となる株式の種類、内容及び数(株)	普通株式147,600 [ 144,600 ]	普通株式9,200 [ 9,200 ]
新株予約権の行使時の払込金額(円)	620 (注) 1	同左
新株予約権の行使期間	自 2019年7月20日 至 2027年5月19日	自 2019年12月17日 至 2027年10月16日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 620 資本組入額 310	同左
新株予約権の行使の条件	(注) 2	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権の譲渡については、取締役会の承認を要するものとする。	同左
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注) 3	同左

当事業年度の末日(2019年12月31日)における内容を記載しております。当事業年度の末日から提出日の前月末現在(2020年2月29日)にかけて変更された事項については、提出日の前月末現在における内容を[ ]内に記載しており、その他の事項については当事業年度の末日における内容から変更はありません。

(注) 1. 当社が株式分割(株式無償割当を含む。)または株式併合を行う場合、次の算式により行使価額を調整し、1円未満の端数は切り上げます。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

また、当社が行使価額を下回る払込金額で募集株式の発行または自己株式の処分を行う場合(新株予約権の行使に基づく株式の発行・処分を除く)は、次の算式により行使価額を調整し、調整により生じる1円未満の端数は切り上げます。

$$\text{調整後行使価額} = \frac{\text{既発行株式数} \times \text{調整前行使価額} + \text{新規発行株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

上記算式において「既発行株式数」とは、当社の発行済株式総数から当社が保有する自己株式数を控除した数とし、自己株式の処分を行う場合には「新規発行」を「自己株式の処分」、「1株当たり払込金額」を「1株当たり処分金額」と読み替えるものとします。

さらに、上記のほか、当社が吸収合併、新設合併、吸収分割、新設分割、株式交換もしくは株式移転を行なう場合又はその他やむを得ない事由が生じた場合には、行使価額は、合理的な範囲で調整されるものとします。

2. 新株予約権の行使の条件は以下のとおりであります。

- a 新株予約権の割当を受けた者（以下「新株予約権者」という。）は、権利行使時においても、当社または当社子会社の取締役、監査役、従業員または顧問、社外協力者その他これに準ずる地位を有していなければならない。ただし、取締役・監査役の任期満了による退任、従業員の定年退職、従業員のうち正社員以外（嘱託・パート・契約社員）の契約期間満了による退職の場合、または取締役会が正当な理由があると認めた場合は、この限りではない。
- b 新株予約権の行使は、当社普通株式に係る株式がいずれかの金融商品取引所に上場することを条件とする。
- c 新株予約権者が死亡した場合、その相続人による新株予約権の権利行使は認めないものとする。

3. 当社が合併（当社が合併により消滅する場合に限る。）、吸収分割、新設分割、株式交換又は株式移転（以上を総称して以下「組織再編行為」という。）をする場合において、組織再編行為の効力発生日において残存する新株予約権（以下「残存新株予約権」という。）の新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条1項第8号のイからホまでに掲げる株式会社（以下「再編対象会社」という。）の新株予約権を以下の条件に基づきそれぞれ交付することとします。この場合においては、残存新株予約権は消滅し、再編対象会社は新株予約権を新たに発行するものとします。ただし、以下の条件に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約または株式移転計画において定めた場合に限るものとします。

- a 交付する再編対象会社の新株予約権の数  
組織再編行為の効力発生の時点において残存する募集新株予約権の新株予約権者が保有する新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付するものとする。
- b 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の種類  
再編対象会社の普通株式とする。
- c 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数  
組織再編行為の条件等を勘案のうえ、前記1. に準じて決定する。
- d 新株予約権の行使に際して出資される財産の価額  
交付される各新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、組織再編行為の条件等を勘案のうえ、前記2. で定められた行使価額を調整して得られる再編後払込金額に上記3 に従って決定される当該新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数を乗じて得られる金額とする。
- e 新株予約権を行使することができる期間  
本新株予約権の新株予約権を行使できる期間の開始日と組織再編行為の効力発生日のうちいずれか遅い日から、本新株予約権に定める新株予約権を行使することができる期間の満了日までとする。
- f 新株予約権の行使の条件  
前記2. に準じて決定する。
- g 増加する資本金及び資本準備金に関する事項  
本新株予約権の定めに基づいて決定する。
- h 譲渡による新株予約権の取得の制限  
譲渡による新株予約権の取得については、再編対象会社の承認を要するものとする。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】  
該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数 増減数(株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
2019年9月27日 (注)	-	21,360,000	905,000	1,000,000	905,000	1,967,230

(注) 会社法第448条第1項の規定に基づき、資本準備金を減少し、資本金へ振替えたものであります。

(5)【所有者別状況】

2019年12月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株 式の状況 (株)
	政府及び地 方公共団体	金融機関	金融商品取 引業者	その他の法 人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	4	29	39	10	3	3,071	3,156	-
所有株式数 (単元)	-	9,993	3,766	112,366	2,278	4	85,188	213,595	500
所有株式数の割 合(%)	-	4.68	1.76	52.61	1.07	0.00	39.88	100.00	-

(注) 自己株式3,143,500株は、「個人その他」に31,435単元を含めて記載しております。

(6)【大株主の状況】

2019年12月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
(株)ティーエムアセット	千葉県市川市堀之内4丁目10-9	10,526,200	57.78
日本トラスティ・サービス信託銀行 (株)	東京都中央区晴海1丁目8-11	816,800	4.48
前島 崇志	千葉県市川市	688,100	3.77
テクノフレックスグループ従業員持 株会	東京都台東区蔵前1丁目5-1	350,500	1.92
東京中小企業投資育成(株)	東京都渋谷区渋谷3丁目29-22	350,000	1.92
前島 岳	千葉県松戸市	304,000	1.66
みずほ成長支援投資事業有限責任組 合	東京都千代田区内幸町1丁目2-1	303,500	1.66
SMB Cベンチャーキャピタル1号 投資事業有限責任組合	東京都中央区八重洲1丁目3-4	250,000	1.37
(株)ドリームインキュベータ	東京都千代田区霞が関3丁目2-6 東 京倶楽部ビルディング4F	201,600	1.10
資産管理サービス信託銀行(株)	東京都中央区晴海1丁目8-12 晴海 トリトンスクエアタワーZ	161,400	0.88
計	-	13,952,100	76.59

(7)【議決権の状況】

【発行済株式】

2019年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 3,143,500	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 18,216,000	182,160	-
単元未満株式	普通株式 500	-	-
発行済株式総数	21,360,000	-	-
総株主の議決権	-	182,160	-

【自己株式等】

2019年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(株)テクノフレックス	東京都台東区蔵前一丁目5番1号	3,143,500	-	3,143,500	14.72
計	-	3,143,500	-	3,143,500	14.72

## 2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 普通株式

(1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2)【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

(4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額 (千円)	株式数(株)	処分価額の総額 (千円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	200,000	166,500		
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式				
その他(新株予約権の権利行使)	74,300	46,066	3,000	1,860
保有自己株式数	3,143,500		3,140,500	

(注) 1. 当事業年度における「引き受ける者の募集を行った取得自己株式」は、2019年12月9日を振込期日とするブックビルディング方式による募集による自己株式の処分であります。

2. 当期間における取得自己株式には2020年3月1日からこの有価証券報告書提出日までの新株予約権の権利行使による株式数は含まれておりません。

## 3【配当政策】

当社は株主に対する利益還元を安定的かつ継続的に実施することを重要な経営課題と認識し、経営環境、将来の事業展開、業績の推移及び長期的な事業展開と財務体質・収益基盤の強化、並びに内部留保の充実等を総合的に勘案したうえで決定し、安定的かつ継続的な配当に加え業績連動により配当性向40%以上を目標とすることを基本方針としております。また、当社の剰余金の配当は、中間配当及び期末配当の年2回を基本的な方針としております。

当事業年度の剰余金の配当につきましては、上記方針に基づき、1株当たり38円(うち中間配当14円)の配当を実施いたしました。この結果、当事業年度の連結配当性向は40.2%となりました。

内部留保資金については、財務体質を強化するとともに、今後の事業拡大に向けた投資に活用していく方針であります。

なお、当社は、「剰余金の配当等会社法第459条第1項各号に定める事項については、法令に別段の定めがある場合を除き、株主総会の決議によらず取締役会の決議により定める」旨、及び「中間配当は取締役会の決議により定める」旨、並びに「期末配当の基準日は毎年12月31日、中間配当の基準日は毎年6月30日とする」旨を、定款に定めております。

当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)
2019年7月16日 取締役会決議	251,190	14
2020年2月18日 取締役会決議	437,196	24

## 4【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1)【コーポレート・ガバナンスの概要】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社のコーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方は、株主をはじめとする全てのステークホルダーの利益を守ることであります。そのため、当社では、「従業員の幸せを追求すると共に、価値ある製品づくりに真心で挑み、世界に貢献します。」をグループの経営理念として掲げております。この目標を達成するために、法令遵守及びその他社会的責任を果たすことのみならず、経営の効率性、健全性及び透明性を高めることにより、企業価値を継続的に向上させることが重要であると認識しております。

当該認識のもと、当社では監査等委員会を設置し、経営の意思決定と業務執行の監督に透明性を確保し、適正かつ効率的な経営活動に取り組みながら、コーポレート・ガバナンスの充実に努めております。

企業統治の体制の概要及び当該体制を採用する理由

当社は、コーポレート・ガバナンス体制として、監査等委員会設置会社を選択しております。当社では従来から、監督機能及び業務執行機能の強化並びに経営の透明性の向上等、コーポレート・ガバナンスの強化に取り組んでまいりました。監査等委員である取締役が取締役会における議決権を持つこと等により迅速な意思決定を実現するとともに、取締役会の監督機能の一層の強化に取り組んでおります。また、会社の機関として、取締役会、監査等委員会及び会計監査人を設置しているほか、社内規程により経営会議、内部監査室、コンプライアンス委員会及びリスク管理委員会を設置しております。各機関の概要及び当社のコーポレート・ガバナンス体制の模式図は以下のとおりであります。

#### a．取締役会（有価証券報告書提出日現在）

議長：代表取締役社長兼社長執行役員 前島 岳

構成員：川上展生、元田充隆（社外取締役）、荻野美里（社外取締役）赤堀幸子（監査等委員・常勤）、植木秀敏（監査等委員・社外取締役）、深見克俊（監査等委員・社外取締役）

当社の取締役会は7名（内、監査等委員以外4名、監査等委員3名）の取締役にて構成されており、法令で定められた事項及び重要事項を決定するとともに、グループ各社の業務執行状況の報告を受け、監督を行っております。取締役会は、毎月1回の定時取締役会を開催するほか、迅速な意思決定を確保するため必要に応じて臨時取締役会を開催しております。

#### b．監査等委員会（有価証券報告書提出日現在）

委員長：取締役（監査等委員・常勤） 赤堀幸子

構成員：植木秀敏（監査等委員・社外取締役）、深見克俊（監査等委員・社外取締役）

監査等委員会は、常勤監査等委員1名、非常勤監査等委員2名の計3名にて構成されており、監査内容の共有及び監査に関する重要な事項の決定を行っております。監査等委員会は、毎月1回の定例の監査等委員会を開催するほか、必要に応じて臨時監査等委員会を開催しております。

監査等委員会は、内部統制システムを利用して、取締役の職務執行及びその他グループ経営に係る全般の職務執行状況について、監査を実施しております。取締役会への出席や社内での重要な会議への出席、事業部門へのヒアリング、子会社監査等により、監査機能がより有効・適切に機能するよう努めております。

また、内部監査室及び会計監査人と連携し、情報収集、監査環境を整備し、監査・監督機能の強化を図っております。

#### c．会計監査人（有価証券報告書提出日現在）

構成員：三優監査法人 公認会計士 山本公太、公認会計士 齋藤浩史  
補助者10名（公認会計士5名、その他5名）

当社は三優監査法人と監査契約を締結し、同監査法人が会計監査を実施しております。当期において業務を執行した公認会計士の氏名は、山本公太及び齋藤浩史の2名であり、当社が吸収合併した株式会社テクノホールディングスより通算した継続関与年数は山本公太は3年、齋藤浩史は11年であります。また、監査業務にかかる補助者は、公認会計士5名、その他5名で構成されております。

なお、同監査法人及び当社監査に従事する同監査法人の業務執行社員と当社の間には、特別な利害関係はありません。

#### d．経営会議（有価証券報告書提出日現在）

議長：代表取締役社長兼社長執行役員 前島 岳

構成員：川上展生、川本哲夫、土方直哉、藤木英世、與島政幸、平野泰輔、前島崇志、関 浩司、松枝英夫、篠原康隆

オブザーバー：赤堀幸子（監査等委員・常勤）

経営会議は、業務執行取締役4名にて構成されており、決裁権限を付与された事項の決定及びその他経営に関する重要事項の審議を行っております。経営会議は、毎月1回の定例の経営会議を開催するほか、必要に応じて臨時経営会議を開催しております。

e. 内部監査室（有価証券報告書提出日現在）

室長：部長 今井一孝

構成員：高橋榮一、松田孝一

他の部門から独立した代表取締役直轄の内部監査室（内部監査室長1名、担当者2名の計3名）を設置し、当社グループ各部門の業務の有効性・効率性の評価を中心とした業務監査を行い、業務の適正な執行に係る健全性の維持に努めております。また、適宜監査等委員会や会計監査人との情報共有を図り、業務の改善に向けた具体的な助言を実施しております。

f. コンプライアンス委員会（有価証券報告書提出日現在）

委員長：代表取締役社長兼社長執行役員 前島 岳

構成員：川上展生、川本哲夫、土方直哉、藤木英世、平野泰輔、與島政幸、今井一孝、松田孝一、藤井正之  
オブザーバー：赤堀幸子（監査等委員・常勤）

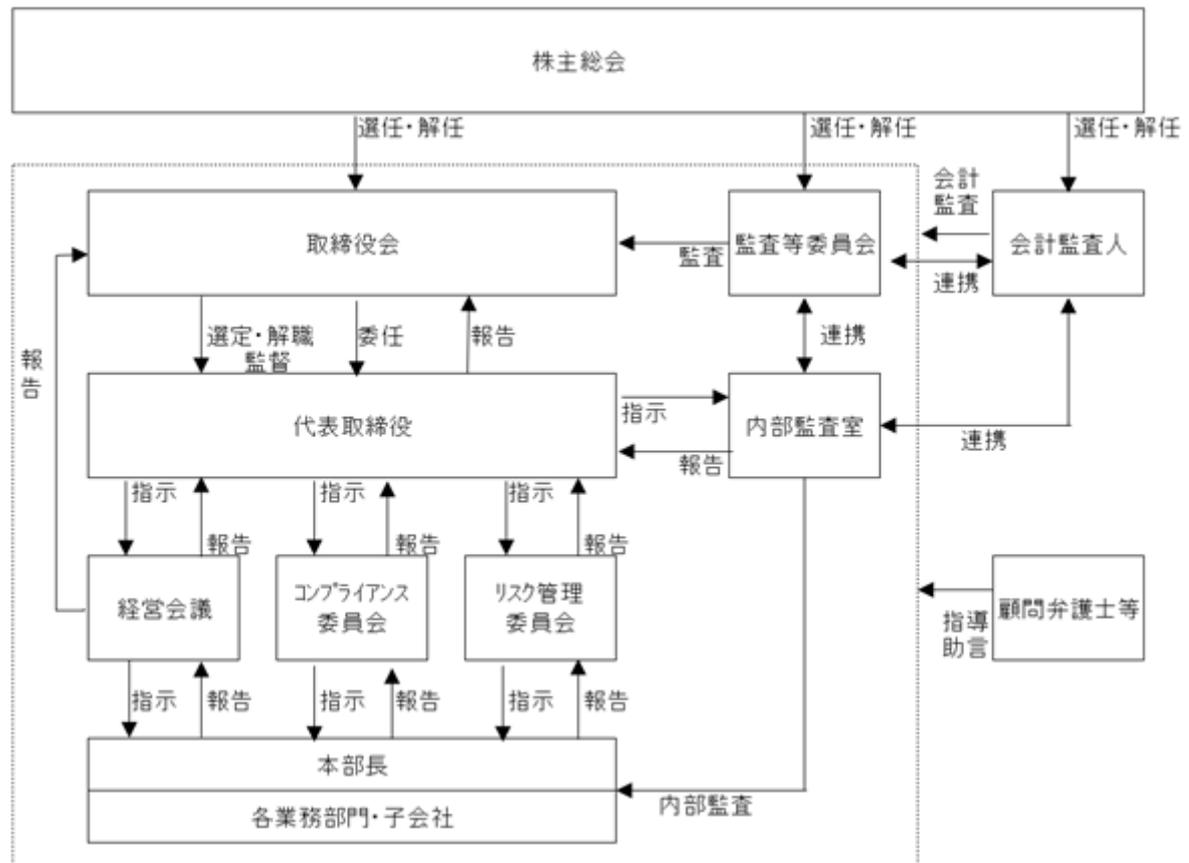
当社グループのコンプライアンスの方針等を検討及び監督するために、コンプライアンス委員会を毎月1回開催し、内部統制システムの実効性を高めております。

g. リスク管理委員会（有価証券報告書提出日現在）

委員長：代表取締役社長兼社長執行役員 前島 岳

構成員：川上展生、川本哲夫、土方直哉、藤木英世、平野泰輔、與島政幸、今井一孝、松田孝一、藤井正之  
オブザーバー：赤堀幸子（監査等委員・常勤）

当社グループの事業リスクの抽出及び評価を行い対応策を検討するために、リスク管理委員会を毎月1回開催し、内部統制システムの実効性を高めております。



## 企業統治に関するその他の事項

### a. 内部統制システムの整備の状況

当社は、取締役及び当社の子会社の取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するため、内部統制システムの基本方針を定めております。この方針に基づき、内部統制システムの運用を徹底し、また必要に応じて改善しております。内部統制システムの基本方針の内容は以下のとおりであります。

(1) 当社及び子会社（以下、「当社グループ」という。）の取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

・ 当社グループの取締役及び使用人は、経営理念を具体化して定めた「テクノフレックスグループコンプライアンス行動規範」を当社グループのコンプライアンス体制の基礎として、その遵守及び推進に率先垂範して取り組む。

・ 当社にコンプライアンス委員会を設置し、法令、定款、社内規程の遵守に関わる計画及び施策の審議、監督を行い、当社グループのコンプライアンスの取組みを推進する。

・ コンプライアンス委員会は、事業活動において遵守すべき法令等の主要項目、対応方針、注意事項を明記したガイドラインを作成するとともに、コンプライアンスに関する研修を継続的に実施し、コンプライアンス意識の醸成を図る。

・ 内部通報制度を整備し、当社グループの取締役及び使用人の職務執行におけるコンプライアンス違反について早期発見と是正を図る。

・ 内部監査を適切に実施し、当社グループの経営方針や社内規程に準拠して運用されていることを検証、評価、助言することで、不正や誤謬の防止、正確な管理情報の提供、財産の保全、業務活動の改善向上を図る。

(2) 当社の取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

・ 取締役会議事録や重要事項に関する稟議書等の取締役の職務執行に関する情報（文書又は電磁的記録）は、法令及び社内規程に基づき、適切に保存及び管理を行なう。

・ 情報セキュリティの基本方針を定め、これに従って情報セキュリティの向上に努める。

・ 個人情報に関しては、社内規程に従って保有する個人情報について適切に保存及び管理を行う。

(3) 当社グループの損失の危険の管理に関する規程その他の体制

リスク管理体制を構築し、当社にリスク管理委員会を設置して当社グループに関わるリスクの識別、分析、評価に基づき適切な対応を行う。

(4) 当社グループ取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

・ 定期的に定例取締役会を開催するほか、必要に応じて臨時取締役会を開催し、法令や定款に定める事項、業務執行の基本事項に関する決議を行う。

・ 必要に応じて執行役員を置き、迅速な業務執行と意思決定を行う。

・ 各組織の職務分掌と各職位の責任と権限を明確化し、業務の組織的かつ能率的な運営を図る。

(5) 当社の子会社の取締役の職務の執行に係る事項の当社への報告に関する体制

・ 当社の子会社の経営基本事項に関する指導及び管理、その他重要事項の処理及び調整を図り、当社グループとしての総合的な発展を図る。

・ 当社グループ連結予算に基づく業績管理により、当社の子会社の業務執行の状況を適切に把握、管理する。

・ 当社の子会社の経営意思決定に係る重要事項については、稟議手続等を通じて当社に報告され、当社の取締役会において審議及び決裁が行われる。

・ 当社の子会社の取締役は、月次で当社に対する業績報告を行うとともに、代表取締役の指示により当社の取締役会に出席し、財政状態、経営成績その他職務の執行に係る重要事項の報告を行う。

(6) 監査等委員会の職務を補助すべき取締役及び使用人に関する事項、当該取締役及び使用人の監査等委員でない取締役からの独立性に関する事項並びに監査等委員会の当該取締役及び使用人に対する指示の実効性に関する事項

・ 監査等委員会が、その職務を補助すべき使用人を置くことを代表取締役等に求めたときは、代表取締役は、監査等委員会の職務を補助すべき使用人を設置する。

・ 監査等委員会の職務を補助すべき使用人の人事異動、人事評価等については、監査等委員会の事前の同意を得ることにより、取締役からの独立性を確保する。

・ 監査等委員会の職務を補助すべき使用人は、監査等委員の指揮命令下で職務を遂行することとし、その実効性を確保する。

(7)当社グループの監査等委員でない取締役、監査役及び使用人又はこれらの者から報告を受けた者が監査等委員会に報告するための体制、並びに当該報告をした者が報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制

・監査等委員会が、当社グループの監査等委員でない取締役、監査役及び使用人又はこれらの者から報告を受けた者が監査等委員会に報告するための体制を整備するよう代表取締役に要請したときは、代表取締役は監査等委員会への報告に関する体制を整備する。

・当社グループの監査等委員でない取締役、監査役及び使用人又はこれらの者から報告を受けた者が監査等委員会に報告したとき、代表取締役は当該報告をした者が不利な取扱いを受けることのないように適切な措置を講ずる。

(8)監査等委員の職務の執行について生ずる費用の前払又は償還の手続その他の当該職務の執行について生ずる費用又は債務の処理に係る方針に関する事項

監査等委員の職務の遂行に伴い生じた費用は、監査等委員が管理しており、監査等委員より請求に応じて、速やかに処理を行っております。

(9)監査等委員会の監査が実効的に行われることを確保するための体制

・代表取締役と監査等委員会との間で定期的に会合を開き、対処すべき課題、監査等委員会監査の環境整備状況、監査上の重要課題等について意見を交換し、相互に認識を深めるように努める。

・監査等委員会は、当社グループの重要な意思決定や業務の執行状況を把握し、監査上必要とする情報を収集するために各事業所の視察、稟議書等の重要文書の閲覧等を行うことができる。

・監査等委員会は、法令や定款の違反、会社に著しい損害を与えるおそれのある事実を発見した場合、取締役に報告、勧告、助言を行うことができる。

・内部監査室は、監査等委員会と緊密な連携を保ち、監査効率の向上を図るように努める。

(10)反社会的勢力を排除するための体制

・社会の秩序や企業の健全な活動に脅威を与える反社会的勢力に対しては、毅然とした姿勢で組織的に対応する。

・反社会的勢力による不当要求事案の発生時は、警察、弁護士、暴力追放運動推進センター等の外部専門機関と連携して対応する。

(11)財務報告の信頼性を確保するための体制

財務報告の信頼性を確保するため、代表取締役の指示のもと金融商品取引法に基づく内部統制報告書の有効かつ適切な提出に向けた内部統制の整備を行い、その仕組みが適正に機能することを継続的に評価し、不備があれば必要な是正を行うことにより、金融商品取引法及びその他関係法令等の適正性を確保する。

#### b. リスク管理体制の整備の状況

当社は、業務運営に関するリスクの検討・分析及び回避・予防の方針・対策等について、経営リスクについては経営会議において、事務リスクについてはリスク管理委員会またはコンプライアンス委員会において審議し、日々の個別のリスク管理は各担当部門及びグループ各社が行っております。

予算の策定・実施・統制のプロセスを通じて、グループ全体のリスクを総合的に管理し、法律上の判断を必要とする専門的事項については、顧問弁護士に相談し、助言を得ております。また、外部の顧問弁護士等を通報窓口とする内部通報制度を整備しており、リスクの早期発見と未然防止に努めております。

#### c. 子会社の業務の適正を確保するための体制整備の状況

上記（a. 内部統制システムの整備の状況）に記載した内部統制システムに関する基本方針に基づき、以下の体制を構築しております。

(1) 子会社の内部監査を、当社内部監査室が同一の監査基準で監査を行い、当社グループ全体の内部統制の水準を維持しております。

(2) 関係会社管理規程に子会社の重要事項の事前承認事項及び定例報告事項を定め、情報の共有化を図っております。

(3) 当社取締役に主要国内子会社の社長を定期的に出席させ、業務執行状況の報告を受けております。

(4) 関係会社所管部と主要国内子会社は定期的にリスク会議を開催し、その結果をリスク管理委員会に報告しております。また、海外製造子会社につきましては、定期的に海外工場会議を開催するとともに、事案、案件に応じて、担当役員または所管部担当者が随時出張し、協議を行い対応を決定しております。

(5) 監査等委員会は、必要に応じて子会社の実査を行うほか、内部監査室と連携を密にし、業務執行状況をモニタリングしております。

d．取締役選任の決議要件

当社は、取締役を監査等委員とそれ以外の取締役と区別して株主総会決議により選任し、その選任決議については、議決権を行使できる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨定款に定めております。

また、取締役の選任決議は、累積投票によらないものとする旨定款に定めております。

e．剰余金の配当等の決定機関

当社は、剰余金の配当等会社法第459条第1項各号に定める事項について、法令に別段の定めがある場合を除き、取締役会の決議によって定め株主総会の決議によらないものとする旨を定款に定めております。これは、剰余金の配当等を取締役会の権限とすることにより、株主への機動的な利益還元を行うことを目的とするものであります。

また、当社は、株主への機動的な利益還元を行うことを目的として、会社法第454条第5項の規定により、取締役会決議によって毎年6月30日を基準日として中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

f．株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の客足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

g．取締役の責任免除、責任限定契約の内容の概要

当社は、職務の遂行にあたり期待される役割を十分に発揮できるようにするため、会社法第426条第1項の規定により、任務を怠ったことによる取締役（取締役であった者を含む。）の損害賠償責任を、法令の限度において、取締役会の決議によって免除することができる旨定款に定めております。

また、当社は、業務執行取締役等でない取締役との間において、当社定款及び会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく賠償責任限度額は、法令が規定する額としております。なお、当該責任限定が認められるのは、当該業務執行取締役等でない取締役が責任の原因となった職務の遂行について善意でかつ重大な過失がないときに限られます。

h．取締役の定数

当社は、定款にて取締役（監査等委員である取締役を除く。）の員数は8名以内、監査等委員である取締役の員数を4名以内と定めております。

( 2 ) 【 役員の状況】

役員一覧（報告書提出日現在）

男性 5名 女性 2名 （ 役員のうち女性比率28.6% ）

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 （ 株 ）
代表取締役 社長兼 社長執行役員	前島 岳	1967年11月22日生	1994年4月 当社 入社 2003年1月 (株)テクノホールディングス 執行役員 2003年4月 南京晨光東螺波紋管有限公司 副董事長（現任） 2004年3月 (株)テクノホールディングス 取締役 2005年3月 天孚真空機器軟管（上海）有限公司 董事 2005年9月 (株)テクノホールディングス 専務取締役管理本部長兼経営企画室長 2008年3月 同社 代表取締役社長 2008年3月 TF(VIETNAM)CO., Ltd. チェアマン（現任） 2009年1月 当社 代表取締役副社長兼営業本部長 2010年3月 当社 代表取締役社長兼営業本部長 2012年1月 当社 代表取締役副社長兼管理本部長 2013年3月 当社 代表取締役社長兼営業本部長 2013年3月 (株)チューブフォーミング 代表取締役社長 2014年3月 同社 取締役（現任） 2015年5月 当社 代表取締役社長 2016年2月 (株)TFエンジニアリング 代表取締役社長 2016年2月 (株)スペースケア 取締役 2016年3月 天津天富軟管工業有限公司 董事長（現任） 2018年3月 当社 代表取締役社長兼社長執行役員（現任） 2018年9月 (株)中野製作所 代表取締役社長	（注2）	304,000
取締役兼 専務執行役員 管理本部長	川上 展生	1960年5月15日生	1983年4月 (株)三和銀行（現 (株)三菱UFJ銀行）入行 2009年9月 同行 神保町支店長 2012年7月 当社 入社 総務部長 2013年3月 当社 執行役員管理本部長 2013年3月 (株)チューブフォーミング 取締役 2014年3月 当社 取締役管理本部長兼総務部長 2014年3月 (株)チューブフォーミング 監査役 2015年3月 当社 常務取締役管理本部長兼総務部長 2015年3月 (株)スペースケア 監査役 2016年11月 天孚真空機器軟管（上海）有限公司 監事（現任） 2018年3月 当社 取締役兼専務執行役員管理本部長兼総務部長 2019年3月 当社 取締役兼専務執行役員管理本部長（現任）	（注2）	25,000

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役	元田 充隆	1945年 8月15日生	1969年 7月 (株)三和銀行(現 (株)三菱UFJ銀行) 入行 1989年 2月 同行 沼津支店長 1990年10月 東和証券(株) 総合企画室長 1993年 5月 (株)三和銀行(現 (株)三菱UFJ銀行) 事業調査部長 1996年 6月 同行 取締役事業調査部長 1997年 6月 同行 取締役人事部長就任 1999年 6月 同行 常務執行役員 2001年 6月 同行 専務執行役員 2002年 6月 (株)UFJ総合研究所 専務取締役 2003年 6月 (株)UFJ総合研究所 代表取締役社長 2005年 6月 宇部興産(株) 社外取締役 2014年 7月 当社 社外取締役(現任)	(注2)	5,000
取締役	荻野 美里	1983年 1月20日生	2006年 9月 新日本アーンストアンドヤング税理士法人(現 EY税理士法人)入社 2010年 9月 OAG税理士法人 入社 2017年 9月 同社 マネジメント・ソリューション部 公益財団プロジェクト シニアマネージャー(現任) 2020年 3月 当社 社外取締役(現任)	(注2)	-
取締役 常勤監査等委員	赤堀 幸子	1954年 7月22日生	1977年 4月 通商産業省(現経済産業省)入省 2002年 7月 産業基盤整備基金 投資管理課長 2004年 7月 経済産業省経済産業政策局産業施設課 課長補佐 2006年 6月 同省 中部経済産業局資源エネルギー環境部 エネルギー対策課長 2008年 7月 同省 資源エネルギー庁長官官房総合政策課企画官 2009年 6月 (財)交流協会 貿易経済部長 2012年 6月 (独)新エネルギー・産業技術総合開発機構 新エネルギー部 統括主幹 2015年 2月 経済産業省貿易経済協力局貿易管理部 安全保障貿易管理課 安全保障貿易管理分析官 2016年 4月 当社 入社 顧問 2016年 7月 当社 取締役(監査等委員・常勤)(現任)	(注3)	-
取締役 監査等委員	植木 秀敏	1947年 7月21日生	1970年 4月 (株)ゼネラル(現 (株)富士通ゼネラル) 入社 1989年 1月 (株)日本合同ファイナンス(現 (株)ジャフコ)入社 2007年 7月 (株)ヒデコンサルタントオフィス設立 代表取締役 2007年11月 (株)メディサイエンスプランニング(現 エムスリー(株)に吸収合併) 社外監査役 2008年 3月 (株)アルページュ 社外監査役 2009年 5月 日栄インテック(株) 社外監査役(現任) 2010年 3月 (株)テクノホールディングス 社外監査役 2011年11月 当社 社外監査役 2016年 3月 当社 取締役(監査等委員)(現任)	(注3)	8,000

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役 監査等委員	深見 克俊	1950年3月10日生	1973年4月 東京中小企業投資育成(株) 入社 1996年8月 同社 秘書室長 1998年8月 同社 審査部長 2000年4月 同社 業務第一部長 2001年7月 同社 総務企画部長 2004年6月 同社 取締役 2007年6月 同社 常務取締役 2013年6月 同社 監査役(現任) 2014年3月 コスモ・バイオ(株) 社外監査役(現任) 2015年3月 当社 社外監査役 2016年3月 当社 取締役(監査等委員)(現任)	(注3)	-
計					342,000

- (注) 1. 取締役元田充隆及び荻野美里並びに取締役(監査等委員)植木秀敏及び深見克俊は、社外取締役であります。
2. 2020年3月27日開催の定時株主総会終結の時から、2020年12月期に係る定時株主総会の終結の時までであります。
3. 2020年3月27日開催の定時株主総会終結の時から、2021年12月期に係る定時株主総会の終結の時までであります。
4. 当社では、意思決定・監督と執行の分離による取締役会活性化のため、執行役員制度を導入しており、業務執行取締役2名全員は執行役員を兼務しております。

#### 社外役員の状況

当社は社外取締役を選任するための基準は設けておりませんが、当社と特別な利害関係がなく客観的な立場で取締役の業務執行の牽制機能を果たすことができる人材を選任しております。

当社は社外取締役4名(内2名、監査等委員)を選任しております。

取締役元田充隆は、長年、金融機関での事業調査等における豊富な経験と幅広い見識を有しており、また、金融機関での経営者としての経験等から、客観的かつ大局的に企業価値の向上という観点にて、専門的立場から当社の経営に対する適切な監督を行えるものと判断し、社外取締役に選任しております。なお、同氏は、当社株式を5,000株保有しておりますが、その他に同氏と当社との間に人的関係、資本的関係又は取引関係その他の利害関係はありません。

取締役荻野美里は、税理士としての豊富な経験と幅広い見識を有しており、これを当社の経営に反映していただくため、社外取締役に選任しております。尚、同氏と当社との間に人的関係、資本的関係又は取引関係その他の利害関係はありません。

取締役監査等委員植木秀敏は、長年のコンサルティング業務経験があり財務及び会計に関する相当程度の知見を有しており、客観的かつ専門的立場から当社の経営に対する適切な監督を行えるものと判断し、社外取締役に選任しております。なお、同氏は、当社株式を8,000株、新株予約権を20個保有しておりますが、その他に同氏と当社との間に人的関係、資本的関係又は取引関係その他の利害関係はありません。

取締役監査等委員深見克俊は、長年にわたり中小企業投資育成政策実施機関における長年の経験があり財務及び会計に関する相当程度の知見を有しており、事業育成の専門家として、客観的かつ専門的立場から当社の経営に対する適切な監督を行えるものと判断し、社外取締役に選任しております。なお、同氏が監査役を務める東京中小企業投資育成株式会社が当社株式を350,000株保有しておりますが、その他に同氏と当社との間に人的関係、資本的関係又は取引関係その他の利害関係はありません。

社外取締役による監督又は監査と内部監査、監査等委員会監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

社外取締役は、取締役会等を通じ、内部監査、監査等委員会監査及び会計監査の状況を把握し、必要に応じて意見交換を行うなど相互連携を図っております。

監査等委員は、監査等委員会が策定した監査計画に基づいて、常勤監査等委員を中心として計画的かつ網羅的な監査を実施しております。また、取締役会その他重要な会議に出席し、意見を述べるほか、取締役からの聴取、重要な決裁書類等の閲覧を通じ監査を実施しております。監査等委員3名は、適正な監視を行うため定期的に監査等委員会を開催し、打ち合わせを行い、また、会計監査人を含めた積極的な情報交換により連携をとっております。

また、内部監査室、監査等委員会及び会計監査人は、定期的に会合を実施することで情報交換及び相互の意思疎通を図っております。

(3) 【監査の状況】

監査等委員会監査の状況

監査等委員会は、常勤監査等委員1名、非常勤監査等委員2名の計3名にて構成されており、監査内容の共有及び監査に関する重要な事項の決定を行っております。監査等委員会は、毎月1回の定例の監査等委員会を開催するほか、必要に応じて臨時監査等委員会を開催しております。

監査等委員会は、内部統制システムを利用して、取締役の職務執行及びその他グループ経営に係る全般の職務執行状況について、監査を実施しております。取締役会への出席や社内での重要な会議への出席、事業部門へのヒアリング、子会社監査等により、監査機能がより有効・適切に機能するよう努めております。

また、内部監査室及び会計監査人と連携し、情報収集、監査環境を整備し、監査・監督機能の強化を図っております。

内部監査の状況

他の部門から独立した代表取締役直轄の内部監査室（内部監査室長1名、担当者2名の計3名）を設置し、当社グループ各部門の業務の有効性・効率性の評価を中心とした業務監査を行い、その結果を代表取締役社長に対して報告するとともに、業務の改善及び適切な運営に向けての具体的な助言や勧告を行うことにより、業務の適正な執行に係る健全性の維持に努めております。

また、適宜監査等委員会や会計監査人との情報共有を図り、業務の改善に向けた具体的な助言を実施しております。

会計監査の状況

a. 監査法人の名称

三優監査法人

b. 業務を執行した公認会計士

指定社員 業務執行社員 山本 公太

指定社員 業務執行社員 齋藤 浩史

c. 監査業務に係る補助者の構成

当社の会計監査業務に係る補助者は、公認会計士5名、その他5名であります。

d. 監査法人の選定方針と理由

当社は、会計監査人の解任または不再任の決定の方針を定めております。監査等委員会は、当社の会計監査人が会社法第340条第1項各号のいずれかに該当し、適正な監査の遂行が困難であると認めた場合は、監査等委員全員の同意により、当該会計監査人を解任いたします。

また、上記の場合のほか、監査等委員会は、当社の会計監査人の独立性、信頼性、効率性等を勘案し、適正な監査の遂行が困難であると認められる場合等、その必要があると判断した場合は、監査等委員全員の同意により、株主総会に提出する当該会計監査人の解任または不再任に関する議案の内容を決定いたします。

e. 監査等委員会による監査法人の評価

監査等委員会は、会計監査人の解任または不再任の決定方針に基づき、当事業年度の会計監査業務の実施状況を評価した結果、再任が相当であると判断しております。

監査報酬の内容等

a. 監査公認会計士等に対する報酬

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬（千円）	非監査業務に基づく報酬（千円）	監査証明業務に基づく報酬（千円）	非監査業務に基づく報酬（千円）
提出会社	27,200	-	27,200	1,500
連結子会社	-	-	-	-
計	27,200	-	27,200	1,500

b．監査公認会計士等と同一のBDOネットワークに属している監査法人に対する報酬

(前連結会計年度)

当社の連結子会社が、当社の監査公認会計士等と同一のBDOネットワークに属している監査法人に対して支払うべき報酬の額は、2,746千円であります。

(当連結会計年度)

当社の連結子会社が、当社の監査公認会計士等と同一のBDOネットワークに属している監査法人に対して支払うべき報酬の額は、2,669千円であります。

c．その他の重要な監査証明業務に基づく報酬の内容

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

d．監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

当社が、監査公認会計士等に対して報酬を支払っている非監査業務の内容は、コンフォートレターの作成業務であります。

e．監査報酬の決定方針

当社の監査公認会計士等に対する監査報酬の決定方針としましては、監査報酬の見積り内容を確認し監査等委員会の同意を得て取締役会において承認し決定しております。

f．監査等委員会が、会計監査人の報酬等に同意した理由

監査等委員会は、会計監査人の監査計画の内容、会計監査の職務遂行状況及び報酬見積りの算出根拠等が適切であるかについて必要な検証を行ったうえで、会計監査人の報酬等の額につき、会社法第399条第1項の同意を行っております。

(4) 【役員の報酬等】

役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針に係る事項

取締役（監査等委員である取締役を除く。）の報酬等は、固定報酬である基本報酬及び業績連動報酬である賞与で構成されており、2016年3月28日開催の第15回定時株主総会の決議により定められた年間報酬限度額200百万円（ただし、使用人分給与は含まない。）の範囲内において、取締役会から一任を受けた代表取締役社長前島岳が、個々の取締役の職務と責任及び業績等を総合的に評価したうえで決定しており、賞与の額を算定する基礎となる指標は、定めておりません。尚、独立性を確保する目的から、賞与の支給対象に社外役員を含めておりません。

監査等委員である取締役の報酬等は、独立性を確保する目的から、固定報酬である基本報酬のみで構成されており、2016年3月28日開催の第15回定時株主総会の決議により定められた年間報酬限度額25百万円の範囲内において、監査等委員会の協議により決定しております。

役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)				対象となる役員の員数 (人)
		基本報酬	ストックオプション	賞与	退職慰労金	
取締役（監査等委員を除く） （社外取締役を除く）	91,500	64,800	-	26,700	-	5
取締役（監査等委員） （社外取締役を除く）	7,200	7,200	-	-	-	1
社外役員	9,000	9,000	-	-	-	3

役員ごとの連結報酬等の総額等

報酬等の総額が1億円以上であるものが存在しないため、記載しておりません。

使用人兼務役員の使用人給与のうち重要なもの

使用人兼務役員が存在しないため、記載しておりません。

(5) 【株式の保有状況】

投資株式の区分の基準及び考え方

当社は、保有目的が純投資目的である投資株式と純投資目的以外の目的である投資株式の区分について、その投資株式が専ら株式の価値の変動又は株式に係る配当によって利益を受けることを目的としているものを純投資目的である株式とし、それ以外の株式を純投資目的以外の目的である投資株式としています。

保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

a. 保有方針及び保有の合理性を検証する方法並びに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容

当社は顧客及び取引先等との安定的・長期的な取引関係の維持・強化や、当社の中長期的な企業価値向上に値する等、当該株式を保有する高度の合理性があると判断される場合に限り、株式の保有を行います。保有する株式については、定期的に取り締役会へ報告し、個別銘柄ごとに取引関係の維持・強化、中長期的な保有メリット及び保有に伴う便益やリスクが資本コストに見合っているか等を総合的に勘案し、保有の適否を検討しております。

b. 銘柄数及び貸借対照表計上額

	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の合計 額(千円)
非上場株式	-	-
非上場株式以外の株式	6	145,208

(当事業年度において株式数が増加した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の増加に係る取得 価額の合計額(千円)	株式数の増加の理由
非上場株式	-	-	-
非上場株式以外の株式	1	1,367	主に営業取引上の関係強化のために加入しております取引先持株会における買付であります。

(当事業年度において株式数が減少した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の減少に係る売却 価額の合計額(千円)
非上場株式	-	-
非上場株式以外の株式	-	-

c . 特定投資株式及びみなし保有株式の銘柄ごとの株式数、貸借対照表計上額等に関する情報  
特定投資株式

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、定量的な保有効果及び株式数が増加した理由	当社の株式の保有の有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表計上額(千円)	貸借対照表計上額(千円)		
(株)オータケ	11,000	11,000	素形材製品事業の顧客です。当社は、同社との事業上の関係強化・維持のため同社株式を保有しています。	有
	19,591	18,689		
橋本総業(株)	35,148.073	31,201.292	素形材製品事業の顧客です。当社は、同社との事業上の関係強化・維持のため同社株式を保有しています。持株会による取得により増加しています。	無
	68,784	43,525		
ANAホールディングス(株)	2,000	2,000	株主優待制度利用による出張時の経費削減を目的として保有しております。	無
	7,284	7,882		
日本航空(株)	4,000	4,000	株主優待制度利用による出張時の経費削減を目的として保有しております。	無
	13,588	15,564		
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	30,000	30,000	安定的な金融関係取引の維持・強化及び相互の取り組みによる将来的な企業価値向上が、保有の目的です。取引状況等を含めた総合的な判断により保有効果を評価しています。	無
	17,796	16,137		
第一生命ホールディングス(株)	10,000	10,000	安定的な金融関係取引の維持・強化及び相互の取り組みによる将来的な企業価値向上が、保有の目的です。取引状況等を含めた総合的な判断により保有効果を評価しています。	無
	18,165	17,180		

(注) 1 . (株)三菱UFJフィナンシャル・グループは、当社株式を保有しておりませんが、同グループ会社である三菱UFJ信託銀行(株)及び三菱UFJモルガン・スタンレー証券(株)が、当社株式を保有しております。

2 . 定量的な保有効果については、記載が困難であります。毎年、保有目的や資本コストと比較した投資効率などを総合的に考慮し、保有の合理性を検証しております。

3 . 当社保有の特定投資株式は、60銘柄に満たない事から、貸借対照表計上額が資本金額の100分の1以下である特定投資株式についても記載しております。

みなし保有株式

該当事項はありません。

保有目的が純投資目的である投資株式

該当事項はありません。

## 第5【経理の状況】

### 1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(1976年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。

なお、当連結会計年度(2019年1月1日から2019年12月31日まで)の連結財務諸表に含まれる比較情報のうち、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(2018年3月23日内閣府令第7号。以下「改政府令」という。)による改正後の連結財務諸表規則第15条の5第2項第2号及び同条第3項に係るものについては、改政府令附則第3条第2項により、改正前の連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(1963年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(2019年1月1日から2019年12月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(2019年1月1日から2019年12月31日まで)の財務諸表について、三優監査法人により監査を受けております。

### 3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、会計基準等の変更等についての的確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、会計基準等への理解を深め、また、新たな会計基準等に対応しております。

## 1【連結財務諸表等】

## (1)【連結財務諸表】

## 【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当連結会計年度 (2019年12月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	4,091,149	4,227,550
受取手形及び売掛金	3 5,599,951	3 4,726,611
リース投資資産	2 991,911	2 933,247
商品及び製品	853,088	913,327
仕掛品	347,031	307,619
未成工事支出金	1,063,750	6 1,560,182
原材料及び貯蔵品	1,786,623	1,832,053
その他	215,570	223,439
貸倒引当金	14,626	13,516
流動資産合計	14,934,450	14,710,515
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物	4 10,154,543	4 10,513,233
減価償却累計額	5,537,075	5,771,035
建物及び構築物(純額)	2 4,617,467	2 4,742,198
機械装置及び運搬具	4 5,891,486	4 5,898,231
減価償却累計額	4,642,957	4,754,568
機械装置及び運搬具(純額)	1,248,528	1,143,663
土地	2 5,324,302	2 5,324,302
その他	4 1,356,695	4 1,326,478
減価償却累計額	1,006,347	1,017,247
その他(純額)	350,347	309,230
有形固定資産合計	11,540,646	11,519,394
<b>無形固定資産</b>		
のれん	423,589	372,245
その他	160,380	349,820
無形固定資産合計	583,970	722,066
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	343,750	312,591
関係会社出資金	1 853,664	1 827,779
繰延税金資産	109,247	149,008
その他	336,565	371,188
投資その他の資産合計	1,643,228	1,660,567
固定資産合計	13,767,845	13,902,027
資産合計	28,702,295	28,612,542

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当連結会計年度 (2019年12月31日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
買掛金	1,143,798	1,133,536
短期借入金	2,515,000	2,515,000
1年内償還予定の社債	120,000	120,000
1年内返済予定の長期借入金	2,127,083	2,565,171
未払法人税等	412,227	401,392
未成工事受入金	1,514,224	1,977,167
訴訟損失引当金	440,000	-
工事損失引当金	-	617,025
製品保証引当金	-	28,459
その他	1,414,216	1,300,539
<b>流動負債合計</b>	<b>7,815,551</b>	<b>7,043,294</b>
<b>固定負債</b>		
社債	180,000	60,000
長期借入金	2,164,829	2,108,957
繰延税金負債	438,030	482,806
役員退職慰労引当金	60,157	67,654
退職給付に係る負債	227,280	238,346
資産除去債務	22,079	22,080
その他	2,983,507	2,926,984
<b>固定負債合計</b>	<b>3,552,885</b>	<b>2,882,828</b>
<b>負債合計</b>	<b>11,368,437</b>	<b>9,926,122</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	95,000	1,000,000
資本剰余金	1,233,387	457,336
利益剰余金	16,492,681	17,687,299
自己株式	1,041,870	958,253
<b>株主資本合計</b>	<b>16,779,197</b>	<b>18,186,382</b>
<b>その他の包括利益累計額</b>		
その他有価証券評価差額金	8,699	25,515
繰延ヘッジ損益	130,344	175,424
為替換算調整勘定	157,614	46,383
<b>その他の包括利益累計額合計</b>	<b>296,658</b>	<b>247,323</b>
非支配株主持分	258,001	252,714
<b>純資産合計</b>	<b>17,333,858</b>	<b>18,686,419</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>28,702,295</b>	<b>28,612,542</b>

## 【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

## 【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)	当連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)
売上高	19,858,989	18,999,763
売上原価	1 12,930,961	1 12,257,799
売上総利益	6,928,028	6,741,963
販売費及び一般管理費	2, 3 4,358,536	2, 3 4,399,017
営業利益	2,569,492	2,342,945
営業外収益		
受取利息	12,206	11,787
受取配当金	9,732	9,883
仕入割引	20,229	21,768
為替差益	87,470	61,531
受取賃貸料	8,155	24,291
その他	77,357	41,911
営業外収益合計	215,151	171,173
営業外費用		
支払利息	37,494	29,991
売上債権売却損	18,125	18,714
上場関連費用	-	24,552
その他	7,436	3,644
営業外費用合計	63,056	76,903
経常利益	2,721,587	2,437,214
特別利益		
固定資産売却益	4 1,892	-
投資有価証券売却益	-	32,331
受取損害賠償金	-	170,000
特別利益合計	1,892	202,331
特別損失		
固定資産売却損	5 1,502	-
固定資産除却損	6 47,057	6 15,996
減損損失	7 125,794	-
訴訟損失引当金繰入額	440,000	-
特別損失合計	614,354	15,996
税金等調整前当期純利益	2,109,125	2,623,549
法人税、住民税及び事業税	984,762	914,406
法人税等調整額	219,073	1,379
法人税等合計	765,689	915,786
当期純利益	1,343,436	1,707,763
非支配株主に帰属する当期純利益	9,700	10,763
親会社株主に帰属する当期純利益	1,333,735	1,696,999

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)	当連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)
当期純利益	1,343,436	1,707,763
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	68,514	16,816
繰延ヘッジ損益	122,335	45,079
為替換算調整勘定	194,237	103,020
持分法適用会社に対する持分相当額	38,913	16,207
その他の包括利益合計	179,330	57,331
包括利益	1,164,105	1,650,431
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	1,172,625	1,647,664
非支配株主に係る包括利益	8,519	2,767

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自 2018年1月1日 至 2018年12月31日）

（単位：千円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	95,000	1,233,387	15,697,211	1,041,870	15,983,728
当期変動額					
剰余金の配当			538,266		538,266
親会社株主に帰属する当期純利益			1,333,735		1,333,735
自己株式の処分					-
新株予約権の行使					-
準備金から資本金への振替					-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					-
当期変動額合計	-	-	795,469	-	795,469
当期末残高	95,000	1,233,387	16,492,681	1,041,870	16,779,197

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘 定	その他の包括利 益累計額合計		
当期首残高	77,214	8,009	372,545	457,769	272,277	16,713,774
当期変動額						
剰余金の配当						538,266
親会社株主に帰属する当期純利益						1,333,735
自己株式の処分						-
新株予約権の行使						-
準備金から資本金への振替						-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	68,514	122,335	214,930	161,110	14,275	175,386
当期変動額合計	68,514	122,335	214,930	161,110	14,275	620,083
当期末残高	8,699	130,344	157,614	296,658	258,001	17,333,858

当連結会計年度（自 2019年1月1日 至 2019年12月31日）

（単位：千円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	95,000	1,233,387	16,492,681	1,041,870	16,779,197
当期変動額					
剰余金の配当			502,381		502,381
親会社株主に帰属する当期純利益			1,696,999		1,696,999
自己株式の処分		105,532		60,967	166,500
新株予約権の行使		23,416		22,649	46,066
準備金から資本金への振替	905,000	905,000			-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					-
当期変動額合計	905,000	776,050	1,194,618	83,616	1,407,184
当期末残高	1,000,000	457,336	17,687,299	958,253	18,186,382

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘 定	その他の包括利 益累計額合計		
当期首残高	8,699	130,344	157,614	296,658	258,001	17,333,858
当期変動額						
剰余金の配当						502,381
親会社株主に帰属する当期純利益						1,696,999
自己株式の処分						166,500
新株予約権の行使						46,066
準備金から資本金への振替						-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	16,816	45,079	111,231	49,335	5,287	54,622
当期変動額合計	16,816	45,079	111,231	49,335	5,287	1,352,561
当期末残高	25,515	175,424	46,383	247,323	252,714	18,686,419

## 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)	当連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	2,109,125	2,623,549
減価償却費	625,537	668,096
のれん償却額	52,201	51,344
減損損失	125,794	-
貸倒引当金の増減額(は減少)	372	747
賞与引当金の増減額(は減少)	71,015	-
訴訟損失引当金の増減額(は減少)	440,000	-
工事損失引当金の増減額(は減少)	-	17,025
製品保証引当金の増減額(は減少)	-	28,459
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	2,966	11,065
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	28,675	7,496
受取利息及び受取配当金	21,938	21,670
支払利息	37,494	29,991
為替差損益(は益)	5,956	10,285
上場関連費用	-	24,552
固定資産除売却損益(は益)	46,667	15,996
投資有価証券売却損益(は益)	-	32,331
受取損害賠償金	-	170,000
売上債権の増減額(は増加)	597,085	862,034
たな卸資産の増減額(は増加)	179,174	586,043
仕入債務の増減額(は減少)	182,126	6,513
未成工事受入金の増減額(は減少)	381,572	462,942
その他	109,411	68,543
小計	3,266,031	4,043,507
利息及び配当金の受取額	21,938	21,670
利息の支払額	37,758	30,174
和解金の支払額	-	440,000
損害賠償金の受取額	-	170,000
法人税等の支払額	1,076,428	940,178
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,173,783	2,824,824
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	904,080	912,711
有形固定資産の売却による収入	2,167	745
無形固定資産の取得による支出	52,794	126,358
投資有価証券の取得による支出	8,688	1,367
投資有価証券の売却による収入	-	86,346
貸付けによる支出	920	-
その他	24,571	6,184
投資活動によるキャッシュ・フロー	939,744	959,530
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入金の返済による支出	664,301	1,262,783
社債の償還による支出	120,000	120,000
配当金の支払額	538,266	502,381
非支配株主への配当金の支払額	5,756	8,054
上場関連費用の支出	-	5,500
自己株式の処分による収入	-	166,500
ストックオプションの行使による収入	-	46,066
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,328,324	1,686,154
現金及び現金同等物に係る換算差額	85,324	42,738
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	179,609	136,401
現金及び現金同等物の期首残高	4,270,759	4,091,149
現金及び現金同等物の期末残高	4,091,149	4,227,550

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 9社

主要な連結子会社の名称

株式会社スペースケア、株式会社チューブフォーミング、株式会社中野製作所、株式会社アクアリザ  
ープ、株式会社TFエンジニアリング、ニトックス株式会社、天津天富軟管工業有限公司、TF(VIETN  
AM)CO.,LTD.、天孚真空機器軟管(上海)有限公司

(2) 主要な非連結子会社の名称等

該当事項はありません。

2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法適用の非連結子会社の名称等

該当事項はありません。

(2) 持分法適用の関連会社の数 1社

会社等の名称

南京晨光東螺波紋管有限公司

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

すべての連結子会社の事業年度の末日は、連結決算日と一致しております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法を採用しております。

なお、評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算出しておりま  
す。

デリバティブ

時価法を採用しております。

たな卸資産

商品及び製品・・・・・・移動平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下  
げの方法により算定)を採用しております。

仕掛品・・・・・・個別法または移動平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基  
づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

未成工事支出金・・・・・・個別法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの  
方法により算定)を採用しております。

原材料及び貯蔵品・・・・主として移動平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく  
簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産

当社及び国内連結子会社は定率法を、また、在外連結子会社は定額法を採用しております。

ただし、当社の建物（建物附属設備を除く。）、国内連結子会社の1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く。）及び、2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。また、国内連結子会社のレンタル資産については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次の通りであります。

建物及び構築物 2～50年

機械装置及び運搬具 2～18年

無形固定資産

定額法を採用しております。

ただし、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）による定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

工事損失引当金

受注工事に係る損失に備えるため、当連結会計年度末未引渡工事のうち損失の発生が見込まれ、かつ金額を合理的に見積もることができる工事について、損失見積額を計上しております。

製品保証引当金

販売した製品の無償修理及び無償交換に伴う費用の支出に備えるため、当該費用を個別に見積り算出した額を計上しております。

（追加情報）

従来、製品の無償修理及び無償交換に伴う費用は、支出確定時の費用として処理していましたが、当連結会計年度において当該費用の金額的重要性が増したことから、当連結会計年度より製品保証引当金を計上しております。

この変更により販売費及び一般管理費は28,459千円増加し、営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益がそれぞれ同額減少しております。

役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

一部の連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(5) 重要な収益及び費用の計上基準

ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引（貸手）については、リース料を収受すべき時に売上高と売上原価を計上する方法によっております。

完成工事高及び完成工事原価

当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準を適用し、その他の工事契約については、工事完成基準を適用しております。なお、工事進行基準を適用する工事の当連結会計年度末における進捗度の見積りは、原価比例法によっております。

(6) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

なお、在外子会社等の資産及び負債は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び非支配株主持分に含めて計上しております。

(7) 重要なヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法

原則として、繰延ヘッジ処理を採用しております。なお、振当処理の要件を充たしている為替予約については振当処理を、特例処理の要件を満たしている金利スワップについては、特例処理を採用しております。

ヘッジ手段とヘッジ対象

- a. ヘッジ手段・・・為替予約  
ヘッジ対象・・・外貨建仕入債務及び外貨建輸入予定取引
- b. ヘッジ手段・・・金利スワップ  
ヘッジ対象・・・借入金

ヘッジ方針

取締役会で決定した取引の基本方針に基づき、為替変動リスク及び金利変動リスクをヘッジしております。

ヘッジ有効性評価の方法

為替予約については、ヘッジ対象の範囲内で予定取引と同一通貨の為替予約を付しており、ヘッジ手段とヘッジ対象との間の相関関係は継続して確保されておりますので、ヘッジ有効性の評価は省略しております。

また、特例処理を採用している金利スワップについては、有効性の評価を省略しております。

(8) のれん償却方法及び償却期間

のれんの償却については、その個別案件ごとに投資効果の発現する期間を判断し、20年以内の合理的な年数で均等償却しております。

(9) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(10) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。

(未適用の会計基準等)

- ・「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2018年3月30日 企業会計基準委員会)
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 2018年3月30日 企業会計基準委員会)

(1) 概要

収益認識に関する包括的な会計基準であります。収益は、次の5つのステップを適用し認識されます。

ステップ1: 顧客との契約を識別する。

ステップ2: 契約における履行義務を識別する。

ステップ3: 取引価格を算定する。

ステップ4: 契約における履行義務に取引価格を配分する。

ステップ5: 履行義務を充足した時に又は充足するにつれて収益を認識する。

(2) 適用予定日

2022年12月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中であります。

(表示方法の変更)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」の適用に伴う変更)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日。以下、「税効果会計基準一部改正」という。)を当連結会計年度の期首から適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更するとともに、税効果会計関係注記を変更しております。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において「流動資産」の「繰延税金資産」が224,833千円減少し、「投資その他の資産」の「繰延税金資産」が65,181千円増加しております。また、「流動負債」の「繰延税金負債」が120,067千円減少し、「固定負債」の「繰延税金負債」が39,584千円減少しております。

なお、同一納税主体の繰延税金資産と繰延税金負債を相殺しており、変更前と比べて総資産が159,652千円減少しております。

また、税効果会計関係注記において、税効果会計基準一部改正第3項から第5項に定める「税効果会計に係る会計基準」注解(注8)(評価性引当額の合計額を除く。)及び同注解(注9)に記載された内容を追加しております。ただし、当該内容のうち前連結会計年度に係る内容については、税効果会計基準一部改正第7項に定める経過的な取扱いに従って記載しておりません。

(連結貸借対照表関係)

前連結会計年度において、「流動資産」の「仕掛品」に含めていた「未成工事支出金」は資産の総額の100分の1を超えたため、当連結会計年度より独立掲記表示することとしました。この表示方法を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」の「仕掛品」に表示していた1,410,782千円は、「仕掛品」347,031千円、「未成工事支出金」は1,063,750千円として組替えております。

(連結損益計算書関係)

前連結会計年度において、「営業外収益」の「その他」に含めていた「仕入割引」は営業外収益の総額の100分の10を超えたため、当連結会計年度より独立掲記表示することとしました。この表示方法を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

前連結会計年度において、「営業外収益」の「その他」に含めていた「受取賃貸料」は、営業外収益の総額の100分の10を超えたため、当連結会計年度より独立掲記表示することとしました。この表示方法を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

前連結会計年度において、独立掲記表示しておりました「営業外収益」の「作業くず売却益」は営業外収益の総額の100分の10以下となったため、当連結会計年度においては「その他」に含めて表示することとしました。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「営業外収益」の「作業くず売却益」に表示していた45,847千円及び「その他」に表示していた59,895千円は、「仕入割引」20,229千円、「受取賃貸料」8,155千円、「その他」77,357千円として組替えております。

## (連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前連結会計年度において、独立掲記表示しておりました「投資活動によるキャッシュ・フロー」の「貸付金の回収による収入」は金額的重要性が乏しくなったため、当連結会計年度においては「その他」に含めて表示することとしました。この表示方法を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書において、「投資活動によるキャッシュ・フロー」の「貸付金の回収による収入」に表示していた107,582千円は、「その他」として組替えております。

## (連結貸借対照表関係)

## 1 関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当連結会計年度 (2019年12月31日)
関係会社出資金	853,664千円	827,779千円

## 2 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当連結会計年度 (2019年12月31日)
リース投資資産	991,911千円	933,247千円
建物及び構築物	3,187,786	3,162,171
土地	4,445,382	4,311,334
計	8,625,080	8,406,753

担保付債務は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当連結会計年度 (2019年12月31日)
短期借入金	1,000,000千円	1,000,000千円
1年内返済予定の長期借入金	438,061	520,154
長期借入金	1,339,268	1,084,957
固定負債その他(長期預り保証金)	977,200	920,638
計	3,754,531	3,525,751

## 3 期末日満期手形等

期末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形等が期末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当連結会計年度 (2019年12月31日)
受取手形	259,196千円	181,172千円

## 4 圧縮記帳額

国庫補助金等により取得価額から控除している圧縮記帳額及び内訳は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当連結会計年度 (2019年12月31日)
建物及び構築物	19,391千円	19,391千円
機械装置及び運搬具	87,642	87,642
その他	2,548	2,548
計	109,582	109,582

5 当座貸越契約

当社及び連結子会社（株）チューブフォーミング）においては運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行3行と当座貸越契約を締結しております。

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当連結会計年度 (2019年12月31日)
当座貸越極度額	3,700,000千円	3,700,000千円
借入実行残高	1,500,000	1,500,000
差引額	2,200,000	2,200,000

6 たな卸資産及び工事損失引当金の表示

損失が見込まれる工事契約に係るたな卸資産と工事損失引当金は、相殺せずに両建てで表示しております。

工事損失引当金に対応するたな卸資産の額

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当連結会計年度 (2019年12月31日)
未成工事支出金	- 千円	154,743千円

(連結損益計算書関係)

1 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。

	前連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)	当連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)
	71,535千円	14,622千円

売上原価に含まれている工事損失引当金繰入額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)	当連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)
	- 千円	17,025千円

2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)	当連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)
給料	1,283,808千円	1,259,434千円
役員退職慰労引当金繰入額	28,675	7,496
退職給付費用	53,213	51,789
製品保証引当金繰入額	-	28,459

3 一般管理費に含まれる研究開発費の総額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)	当連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)
	187,985千円	219,407千円

4 固定資産売却益の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)	当連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)
機械装置及び運搬具	1,884千円	- 千円
その他	8	-
計	1,892	-

5 固定資産売却損の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)	当連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)
機械装置及び運搬具	1,413千円	- 千円
その他	88	-
計	1,502	-

6 固定資産除却損の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)	当連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)
建物及び構築物	17,954千円	6,682千円
機械装置及び運搬具	29,062	5,934
その他	40	3,379
計	47,057	15,996

#### 7 減損損失

前連結会計年度(自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)

当連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上いたしました。

場所	用途	種類	減損損失
(株)アクアリザーブ本社及び 静岡工場	事業用資産	建物及び構築物	15,311千円
		機械装置及び運搬具	63,928千円
		その他(有形固定資産)	29,222千円
		その他(無形固定資産)	17,332千円
合計			125,794千円

当社グループは、事業用資産については継続的に収支を把握している単位ごとにグルーピングを行い、賃貸資産及び遊休資産については個別の物件ごとにグルーピングを行っております。

当連結会計年度において、収益性が著しく低下した上記事業用資産について、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

当資産グループの回収可能価額は使用価値により算定しております。使用価値については、将来キャッシュ・フローがマイナスであるため、回収可能価額をゼロとして評価しております。

当連結会計年度(自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)

該当事項はありません。

(連結包括利益計算書関係)

その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)	当連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	104,063千円	10,005千円
組替調整額	-	31,728
税効果調整前	104,063	21,722
税効果額	35,548	4,906
その他有価証券評価差額金	68,514	16,816
繰延ヘッジ損益：		
当期発生額	238,584	117,363
組替調整額	51,597	52,381
税効果調整前	186,986	64,981
税効果額	64,651	19,901
繰延ヘッジ損益	122,335	45,079
為替換算調整勘定：		
当期発生額	194,237	103,020
組替調整額	-	-
税効果調整前	194,237	103,020
税効果額	-	-
為替換算調整勘定	194,237	103,020
持分法適用会社に対する持分相当額		
当期発生額	38,913	16,207
その他の包括利益合計	179,330	57,331

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期 首株式数(株)	当連結会計年度増 加株式数(株)	当連結会計年度減 少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	21,360,000	-	-	21,360,000
合計	21,360,000	-	-	21,360,000
自己株式				
普通株式	3,417,800	-	-	3,417,800
合計	3,417,800	-	-	3,417,800

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2018年2月28日 取締役会	普通株式	322,959	(注)18	2017年12月31日	2018年3月22日
2018年7月17日 取締役会	普通株式	215,306	12	2018年6月30日	2018年8月10日

(注) 1株当たり配当額には、創立40周年記念配当3円を含んでおります。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2019年2月14日 取締役会	普通株式	251,190	利益剰余金	14	2018年12月31日	2019年3月11日

当連結会計年度(自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期 首株式数(株)	当連結会計年度増 加株式数(株)	当連結会計年度減 少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	21,360,000	-	-	21,360,000
合計	21,360,000	-	-	21,360,000
自己株式				
普通株式 (注)	3,417,800	-	274,300	3,143,500
合計	3,417,800	-	274,300	3,143,500

(注) 普通株式の自己株式の株式数の減少274,300株は、自己株式の処分による減少200,000株、ストック・オプションの行使による減少74,300株であります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2019年2月14日 取締役会	普通株式	251,190	14	2018年12月31日	2019年3月11日
2019年7月16日 取締役会	普通株式	251,190	14	2019年6月30日	2019年8月9日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2020年2月18日 取締役会	普通株式	437,196	利益剰余金	24	2019年12月31日	2020年3月13日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)	当連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)
現金及び預金勘定	4,091,149千円	4,227,550千円
預入期間が3か月を超える定期預金	-	-
現金及び現金同等物	4,091,149	4,227,550

(リース取引関係)

(借主側)

オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当連結会計年度 (2019年12月31日)
1年内	287	-
1年超	-	-
合計	287	-

(貸主側)

ファイナンス・リース取引

(1) リース投資資産の内訳

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当連結会計年度 (2019年12月31日)
リース料債権部分	991,911千円	933,247千円
リース投資資産	991,911	933,247

(2) リース投資資産に係るリース料債権部分の連結会計年度末日後の回収予定額

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当連結会計年度 (2019年12月31日)
1年以内	57,917千円	57,917千円
1年超2年以内	57,917	57,917
2年超3年以内	57,917	57,917
3年超4年以内	57,917	57,917
4年超5年以内	57,917	57,917
5年超	702,326	643,659
合計	991,911	933,247

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については短期的な預金等に限定し、銀行等金融機関からの借入や社債の発行により資金を調達しております。デリバティブ取引は、後述するリスクのヘッジを目的としており、投機目的では行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容、そのリスク及び管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されておりますが、与信管理規程に従い、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行うとともに、主な取引先の信用状況を定期的に把握する体制としております。

リース投資資産は、リース料債権であり、借手の信用リスクに晒されておりますが、長期預り保証金の受入によりリスクの低減を図っております。なお、長期預り保証金の大部分は、将来返還を要しないと見込まれるものの未償却残高であります。

投資有価証券は、主として株式であり、市場価格の変動リスクに晒されておりますが、定期的に時価を把握し、リスク軽減に努めております。

営業債務である買掛金の一部には、海外からの輸入等に伴う外貨建のものがあり、為替の変動リスクに晒されておりますが、一部は先物為替予約を利用してヘッジしております。

借入金及び社債の使途は運転資金（主として短期）、関係会社株式取得資金、関係会社の運転資金及び設備投資資金（長期）であります。変動金利の借入金は、金利の変動リスクに晒されておりますが、このうち長期のもの一部については、金利スワップを利用してヘッジしております。

デリバティブ取引は、外貨建の買掛金の為替変動リスクに対するヘッジを目的とした為替予約取引と借入金に係る支払金利の変動リスクに対するヘッジを目的とした金利スワップ取引であります。

なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性の評価の方法等については、前述の連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計方針に関する事項 (7) 重要なヘッジ会計の方法」をご参照ください。

デリバティブ取引の執行・管理については、取引権限を定めた社内規程に従って行っており、また、デリバティブの利用にあたっては、信用リスクを軽減するために、格付けの高い金融機関とのみ取引を行っております。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

また、注記事項「デリバティブ取引関係」におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません。（（注）2.をご参照下さい。）

前連結会計年度（2018年12月31日）

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	4,091,149	4,091,149	-
(2) 受取手形及び売掛金	5,599,951	5,599,951	-
(3) リース投資資産	991,911	960,872	31,038
(4) 投資有価証券	340,250	340,250	-
資産計	11,023,262	10,992,223	31,038
(1) 買掛金	1,143,798	1,143,798	-
(2) 短期借入金	1,500,000	1,500,000	-
(3) 未払法人税等	412,227	412,227	-
(4) 社債(*1)	300,000	299,661	338
(5) 長期借入金(*2)	2,912,913	2,933,932	21,019
負債計	6,268,939	6,289,619	20,680
デリバティブ取引(*3)	206,990	206,990	-

(\*1)社債に1年内償還予定の社債を含めております。

(\*2)長期借入金に1年内返済予定の長期借入金を含めております。

(\*3)デリバティブ取引によって生じた正味の債権債務は純額で表示しております。

当連結会計年度（2019年12月31日）

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	4,227,550	4,227,550	-
(2) 受取手形及び売掛金	4,726,611	4,726,611	-
(3) リース投資資産	933,247	920,298	12,949
(4) 投資有価証券	312,591	312,591	-
資産計	10,200,001	10,187,051	12,949
(1) 買掛金	1,133,536	1,133,536	-
(2) 短期借入金	1,500,000	1,500,000	-
(3) 未払法人税等	401,392	401,392	-
(4) 社債(*1)	180,000	179,836	163
(5) 長期借入金(*2)	1,650,129	1,695,498	45,368
負債計	4,865,058	4,910,264	45,205
デリバティブ取引(*3)	264,254	264,254	-

(\*1)社債に1年内償還予定の社債を含めております。

(\*2)長期借入金に1年内返済予定の長期借入金を含めております。

(\*3)デリバティブ取引によって生じた正味の債権債務は純額で表示しております。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから当該帳簿価額によっております。

(3) リース投資資産

リース投資資産の時価は、未経過リース期間のリース料をリスクフリーレートで割り引いた現在価値により算定しております。

(4) 投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっております。

負債

(1) 買掛金、(2) 短期借入金、(3) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから当該帳簿価額によっております。

(4) 社債

社債の時価は元利金の合計額を適切な指標に信用スプレッドを上乗せした利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(5) 長期借入金

長期借入金のうち、固定金利によるものは、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映し、また、当社の信用状態は実行後大きく異なっていないことから、時価は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額によっております。金利スワップの特例処理の対象とされた変動金利の長期借入金については、当該金利スワップと一体として処理された元利金の合計額を新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

デリバティブ取引

注記事項「デリバティブ取引関係」をご参照下さい。

(注) 2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

区分	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当連結会計年度 (2019年12月31日)
関係会社出資金	853,664	827,779
非上場株式	3,500	-

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、上記の表に含めておりません。

(注) 3 . 金銭債権の連結決算日後の償還予定額  
前連結会計年度 (2018年12月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	4,091,149	-	-	-
受取手形及び売掛金	5,599,951	-	-	-
リース投資資産	57,917	231,668	289,585	412,741
合計	9,749,017	231,668	289,585	412,741

当連結会計年度 (2019年12月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	4,227,550	-	-	-
受取手形及び売掛金	4,726,611	-	-	-
リース投資資産	57,917	231,670	289,588	354,070
合計	9,012,078	231,670	289,588	354,070

(注) 4 . 短期借入金、社債及び長期借入金の連結決算日後の返済予定額  
前連結会計年度 (2018年12月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	1,500,000	-	-	-	-	-
社債	120,000	120,000	60,000	-	-	-
長期借入金	1,271,083	556,871	481,837	411,929	177,629	13,559
合計	2,891,083	676,871	541,837	411,929	177,629	13,559

当連結会計年度 (2019年12月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	1,500,000	-	-	-	-	-
社債	120,000	60,000	-	-	-	-
長期借入金	565,171	481,837	411,929	177,629	13,559	-
合計	2,185,171	541,837	411,929	177,629	13,559	-

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前連結会計年度(2018年12月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額(千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	281,287	202,817	78,469
	小計	281,287	202,817	78,469
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	58,963	87,939	28,976
	小計	58,963	87,939	28,976
合計		340,250	290,757	49,493

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額3,500千円)については、市場価額がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当連結会計年度(2019年12月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額(千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	227,245	135,190	92,055
	小計	227,245	135,190	92,055
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	85,345	118,810	33,465
	小計	85,345	118,810	33,465
合計		312,591	254,001	58,589

2. 売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)

種類	売却額(千円)	売却益の合計額(千円)	売却損の合計額(千円)
株式	86,346	32,331	-

(デリバティブ取引関係)

ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

(1) 通貨関連

前連結会計年度(2018年12月31日)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (千円)	契約額等のうち 1年超 (千円)	時価 (千円)
原則的処理方法	為替予約取引				
	買建 米ドル	買掛金	3,932,942	2,936,545	206,990
合計			3,932,942	2,936,545	206,990

(注) 時価の算定方法

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

当連結会計年度(2019年12月31日)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (千円)	契約額等のうち 1年超 (千円)	時価 (千円)
原則的処理方法	為替予約取引				
	買建 米ドル	買掛金	2,936,545	1,970,422	264,254
合計			2,936,545	1,970,422	264,254

(注) 時価の算定方法

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

(2) 金利関連

前連結会計年度(2018年12月31日)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (千円)	契約額等のうち 1年超 (千円)	時価 (千円)
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 受取変動・支払固定	長期借入金	297,523	227,527	(注)

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

当連結会計年度(2019年12月31日)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (千円)	契約額等のうち 1年超 (千円)	時価 (千円)
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 受取変動・支払固定	長期借入金	227,527	157,531	(注)

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び一部の連結子会社は、確定拠出年金制度を採用しております。

一部の連結子会社は、確定給付型の制度として退職一時金制度、確定拠出型の制度として確定拠出年金制度や退職金共済制度(中退共等)を採用しております。退職一時金制度については、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算にあたり、簡便法を採用しております。

また、一部の連結子会社は、複数事業主制度の厚生年金基金に加入しており、自社の拠出に対応する年金資産の額を合理的に計算することができないため、確定拠出制度と同様の会計処理を行っております。

なお、当該基金は2017年3月31日付で厚生労働大臣の認可を受けて解散しております。

2. 確定給付制度

簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)	当連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)
退職給付に係る負債の期首残高	224,313千円	227,280千円
退職給付費用	23,094	18,505
退職給付の支払額	20,127	7,439
退職給付に係る負債の期末残高	227,280	238,346

3. 確定拠出制度

当社及び連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、前連結会計年度79,108千円、当連結会計年度78,414千円であります。

なお、連結子会社が加入している神奈川県鉄鋼業厚生年金基金は、2017年3月31日付で厚生労働大臣の認可を受けて解散しており、現在清算手続き中のため、当連結会計年度における複数事業主制度の直近の積立状況、制度全体に占める連結子会社の掛金拠出割合及び補足説明については記載を省略しております。

また、当該基金の解散による追加負担額の発生はありません。

(ストック・オプション等関係)

1. スtock・オプションに係る費用計上額及び科目名

該当事項はありません。

2. スtock・オプションの内容、規模及びその変動状況

(1) スtock・オプションの内容

	2017年 第1回ストック・オプション	2017年 第2回ストック・オプション
付与対象者の区分及び人数	当社取締役 5名 当社管理職 43名 当社従業員 168名 子会社取締役 9名 子会社管理職 47名 子会社従業員 1名	当社管理職 1名 子会社取締役 2名 子会社管理職 10名 子会社従業員 2名
株式の種類別のストック・オプションの数(注)	普通株式 225,700株	普通株式 19,500株
付与日	2017年7月19日	2017年12月16日
権利確定条件	<p>新株予約権の割当を受けた者(以下「新株予約権者」という。)は、権利行使時においても、当社または当社子会社の取締役、監査役、従業員または顧問、社外協力者その他これに準ずる地位を有していなければならない。ただし、取締役・監査役の任期満了による退任、従業員の定年退職、従業員のうち正社員以外(嘱託・パート・契約社員)の契約満了による退職の場合、または取締役会が正当な理由があると認めた場合は、この限りでない。</p> <p>新株予約権の行使は、当社普通株式に係る株式がいずれかの金融商品取引所に上場することを条件とする。</p> <p>新株予約権者が死亡した場合、その相続人による新株予約権の権利行使は認めないものとする。</p>	<p>新株予約権の割当を受けた者(以下「新株予約権者」という。)は、権利行使時においても、当社または当社子会社の取締役、監査役、従業員または顧問、社外協力者その他これに準ずる地位を有していなければならない。ただし、取締役・監査役の任期満了による退任、従業員の定年退職、従業員のうち正社員以外(嘱託・パート・契約社員)の契約満了による退職の場合、または取締役会が正当な理由があると認めた場合は、この限りでない。</p> <p>新株予約権の行使は、当社普通株式に係る株式がいずれかの金融商品取引所に上場することを条件とする。</p> <p>新株予約権者が死亡した場合、その相続人による新株予約権の権利行使は認めないものとする。</p>
対象勤務期間	対象勤務期間の定めはありません。	対象勤務期間の定めはありません。
権利行使期間	2019年7月20日～2027年5月19日	2019年12月17日～2027年10月16日

(注) 株式数に換算して記載しております。

(2) ストック・オプションの規模及びその変動状況

当連結会計年度（2019年12月期）において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

ストック・オプションの数

	2017年 第1回ストック・オプション	2017年 第2回ストック・オプション
権利確定前 (株)		
前連結会計年度末	223,700	19,500
付与	-	-
失効	10,100	2,000
権利確定	213,600	17,500
未確定残	-	-
権利確定後 (株)		
前連結会計年度末	-	-
権利確定	213,600	17,500
権利行使	66,000	8,300
失効	-	-
未行使残	147,600	9,200

単価情報

	2017年 第1回ストック・オプション	2017年 第2回ストック・オプション
権利行使価格 (円)	620	620
行使時平均株価 (円)	1,046	1,331
付与日における公正な評価単価 (円)	-	-

3. ストック・オプションの公正な評価単価の見積方法

当社は、付与日において未公開企業であったため、ストック・オプションの公正な評価単価の本源的な価値をもってストック・オプションの評価単価としております。

また、単位当たりの本源的価値を算定する基礎となる当社株式の評価方法は、類似業種比準方式と純資産方式の併用によっております。その結果、株式の評価額が新株予約権の行使時の払込金額以下となり、単位当たりの本源的価値はゼロとなるため、ストック・オプションの評価単価はゼロと算定しております。

4. ストック・オプションの権利確定数の見積方法

将来の有効数の見積りは困難であるため、実績の失効数のみ反映させる方法を採用しております。

5. ストック・オプションの単位当たりの本源的価値により算定を行う場合の当連結会計年度末における本源的価値の合計額及び当連結会計年度に権利行使されたストック・オプションの権利行使日における本源的価値の合計額

(1) 当連結会計年度末における本源的価値の合計額	98,470千円
(2) 当連結会計年度に権利行使されたストック・オプションの 権利行使日における本源的価値の合計額	34,533千円

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当連結会計年度 (2019年12月31日)
繰延税金資産		
未払賞与	96,617千円	101,872千円
未払事業税	42,304	27,706
訴訟損失引当金	150,216	-
減価償却限度超過額	144,023	109,769
減損損失	39,878	35,289
棚卸資産評価損	172,413	170,175
棚卸資産未実現損益	31,782	32,107
退職給付に係る負債	77,343	80,729
連結子会社の時価評価差額	73,549	69,258
合併受入資産評価差額	23,739	21,014
税務上の繰越欠損金(注)2	290,230	399,431
その他	67,243	82,160
繰延税金資産小計	1,209,343	1,129,515
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額(注)2	-	342,633
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額	-	313,950
評価性引当額小計(注)1	601,994	656,583
繰延税金資産合計	607,349	472,931
繰延税金負債		
特別償却準備金	115,557	83,205
圧縮積立金	1,061	814
圧縮特別勘定積立金	42,318	-
その他有価証券評価差額金	17,080	17,652
繰延ヘッジ損益	68,928	77,421
連結子会社の時価評価差額	380,366	360,064
関係会社の留保利益	306,637	263,753
その他	4,181	3,817
繰延税金負債合計	936,132	806,729
繰延税金負債の純額	328,782	333,798

(注)1. 評価性引当額は、前連結会計年度に比べ54,589千円増加しております。これは、主に連結子会社において税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額を52,403千円追加的に認識したことに伴うものであります。

2. 税務上の繰越欠損金及びその繰延税金資産の繰越期限別の金額  
当連結会計年度(2019年12月31日)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超	合計
税務上の繰越欠損金(a)	-	-	-	6,834	60,787	331,809	399,431
評価性引当額	-	-	-	6,834	60,787	275,010	342,633
繰延税金資産	-	-	-	-	-	56,798	(b)56,798

(a) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

(b) 税務上の繰越欠損金399,431千円(法定実効税率を乗じた額)について、繰延税金資産56,798千円を計上しております。当該税務上の繰越欠損金について、将来の課税所得の見込みにより回収可能と判断した部分については評価性引当額を認識しておりません。

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当連結会計年度 (2019年12月31日)
法定実効税率	-	30.6%
(調整)		
住民税均等割	-	0.9%
評価性引当額の増減	-	3.2%
税額控除	-	1.1%
在外子会社との税率差異	-	1.6%
留保利益に係る税額	-	0.6%
のれんの償却額	-	0.6%
その他	-	3.0%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	-	34.9%

(注) 前連結会計年度については、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

### 3. 外形標準課税に伴う実効税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の修正

当社は、当連結会計年度に資本金が1億円超となり、外形標準課税適用法人となりました。これに伴い繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は、従来の34.6%から30.6%に変更しております。

なお、この税率変更による影響額は軽微であります。

(資産除去債務関係)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(賃貸等不動産関係)

当社及び一部の連結子会社では、神奈川県その他の地域において賃貸用の土地を有しております。

また、熊本に保有する建物及び土地の一部に遊休資産があります。

これら賃貸等不動産及び賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産に関する連結貸借対照表計上額及び時価は、次のとおりであります。

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)	当連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)
賃貸等不動産		
連結貸借対照表計上額		
期首残高	498,378	498,378
期中増減額	-	-
期末残高	498,378	498,378
期末時価	608,526	565,000
賃貸等不動産として使用される部分を含む 不動産		
連結貸借対照表計上額		
期首残高	380,867	378,784
期中増減額	2,083	2,039
期末残高	378,784	376,744
期末時価	365,145	358,200

(注) 1. 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額を控除した金額であります。

2. 当期末の時価は、主要な物件については社外の不動産鑑定士による不動産鑑定評価書に基づく金額であります。ただし、第三者からの取得時や直近の評価時点から一定の評価額や適切に市場価格を反映していると考えられる指標に重要な変動が生じていない場合には当該評価額や指標を用いて調整した金額によっております。また、その他の重要性が乏しいものについては、一定の評価額や適切に市場価格を反映していると考えられる指標に基づく価額等を時価としております。

また、賃貸等不動産及び賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産に関する損益は、次のとおりであります。

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)	当連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)
賃貸等不動産		
賃貸収益	90,789	90,769
賃貸費用	62,543	63,260
差額	28,245	27,508
賃貸等不動産として使用される部分を含む 不動産		
賃貸収益	5,325	5,476
賃貸費用	3,790	3,502
差額	1,535	1,974

(注) 賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産には、サービスの提供及び経営管理として一部の連結子会社が使用している部分も含むため、当該部分の賃貸収益は、計上されておりません。なお、当該不動産に係る費用(減価償却費、修繕費、保険料、租税公課等)については、賃貸費用に含まれております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、製品の種類、製造方法、販売市場の類似性を基に「管継手事業」、「管継手関連事業」、「金属塑性加工事業」、「介護事業」の4つを報告セグメントとしております。

なお、各報告セグメントの主な製品及びサービスは以下のとおりです。

管継手事業	ステンレス製フレキシブルホースの製造及び販売 ペローズ型伸縮管継手の製造及び販売 半導体関連装置部品の製造及び販売
管継手関連事業	消防設備工事、加工管製造及び販売 鋳鉄管の切断機の製造及び販売 貯水機能付給水管装置の製造及び販売
金属塑性加工事業	輸送機器部品及び産業機器等部品の製造及び販売
介護事業	福祉用具のレンタル及び販売 介護用住宅改修

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載のとおりであります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

なお、「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)を当連結会計年度の期首から適用しており、前連結会計年度のセグメント資産については、当該会計基準を遡って適用した後の数値となっております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額に関する情報  
前連結会計年度(自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	連結財務諸 表計上額 (注3)
	管継手事業	管継手関連 事業	金属塑性加 工事業	介護事業	計				
売上高									
外部顧客への売上 高	12,171,317	3,527,750	2,441,927	1,620,529	19,761,524	97,464	19,858,989	-	19,858,989
セグメント間の内 部売上高又は振替 高	33,195	959,759	-	306	993,262	27,697	1,020,960	1,020,960	-
計	12,204,512	4,487,510	2,441,927	1,620,836	20,754,787	125,162	20,879,949	1,020,960	19,858,989
セグメント利益又は 損失( )	2,532,311	178,602	142,025	173,333	3,026,272	22,349	3,048,622	479,130	2,569,492
セグメント資産	18,043,938	5,527,673	3,598,256	1,556,213	28,726,082	1,005,753	29,731,836	1,029,540	28,702,295
その他の項目									
減価償却費	365,611	53,790	126,574	35,701	581,677	-	581,677	43,859	625,537
のれんの償却額	-	52,201	-	-	52,201	-	52,201	-	52,201
持分法適用会社へ の投資額	853,664	-	-	-	853,664	-	853,664	-	853,664
有形固定資産及び 無形固定資産の増 加額	801,588	17,039	256,206	14,836	1,089,671	-	1,089,671	14,958	1,104,630

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸事業であります。

2. 調整額は、以下のとおりであります。

(1) セグメント利益又は損失( )の調整額 479,130千円は、セグメント間取引消去3,743千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 482,873千円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(2) セグメント資産の調整額 1,029,540千円は、セグメント間取引消去 7,837,146千円、各報告セグメントに配分していない全社資産6,807,606千円であります。全社資産は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門に係る資産等であります。

(3) その他の項目の調整額は、セグメント間取引消去及び報告セグメントに配分していない全社資産に係るものであります。

3. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度（自 2019年1月1日 至 2019年12月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント					その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	連結財務諸 表計上額 (注3)
	管継手事業	管継手関連 事業	金属塑性加 工事業	介護事業	計				
売上高									
外部顧客への売上 高	10,962,633	4,393,364	1,866,158	1,678,770	18,900,928	98,834	18,999,763	-	18,999,763
セグメント間の内 部売上高又は振替 高	52,171	292,201	3,410	-	347,783	27,697	375,481	375,481	-
計	11,014,805	4,685,566	1,869,569	1,678,770	19,248,712	126,532	19,375,244	375,481	18,999,763
セグメント利益又は 損失（ ）	2,092,104	579,870	10,039	189,353	2,851,289	30,972	2,882,261	539,316	2,342,945
セグメント資産	14,146,203	5,378,104	3,081,823	1,324,805	23,930,937	1,431,625	25,362,563	3,249,979	28,612,542
その他の項目									
減価償却費	454,441	26,183	113,477	31,666	625,769	-	625,769	42,326	668,096
のれんの償却額	-	51,344	-	-	51,344	-	51,344	-	51,344
持分法適用会社へ の投資額	827,779	-	-	-	827,779	-	827,779	-	827,779
有形固定資産及び 無形固定資産の増 加額	467,079	21,126	150,021	18,147	656,375	-	656,375	213,623	869,998

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸事業であります。

2. 調整額は、以下のとおりであります。

(1) セグメント利益又は損失（ ）の調整額 539,316千円は、セグメント間取引消去5,348千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 544,664千円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(2) セグメント資産の調整額3,249,979千円は、セグメント間取引消去 1,529,169千円、各報告セグメントに配分していない全社資産4,779,149千円であります。全社資産は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門に係る資産等であります。

(3) その他の項目の調整額は、セグメント間取引消去及び報告セグメントに配分していない全社資産に係るものであります。

3. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

#### 【関連情報】

前連結会計年度（自 2018年1月1日 至 2018年12月31日）

##### 1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

##### 2. 地域ごとの情報

###### (1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

###### (2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

##### 3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占めるものが無いため、記載を省略しております。

当連結会計年度（自 2019年1月1日 至 2019年12月31日）

1．製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2．地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3．主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占めるものが無いため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自 2018年1月1日 至 2018年12月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント					その他	全社・消去	合計
	管継手事業	管継手関連事業	金属塑性加工事業	介護事業	計			
減損損失	-	125,794	-	-	125,794	-	-	125,794

当連結会計年度（自 2019年1月1日 至 2019年12月31日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自 2018年1月1日 至 2018年12月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント					その他	全社・消去	合計
	管継手事業	管継手関連事業	金属塑性加工事業	介護事業	計			
当期末残高	-	423,589	-	-	423,589	-	-	423,589

（注） のれん償却額に関しては、セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

当連結会計年度（自 2019年1月1日 至 2019年12月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント					その他	全社・消去	合計
	管継手事業	管継手関連事業	金属塑性加工事業	介護事業	計			
当期末残高	-	372,245	-	-	372,245	-	-	372,245

（注） のれん償却額に関しては、セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度（自 2018年1月1日 至 2018年12月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 2019年1月1日 至 2019年12月31日）

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前連結会計年度（自 2018年1月1日 至 2018年12月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 2019年1月1日 至 2019年12月31日）

該当事項はありません。

( 1株当たり情報 )

	前連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)	当連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)
1株当たり純資産額	951.71円	1,011.92円
1株当たり当期純利益	74.34円	94.50円
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	-	94.09円

- (注) 1. 前連結会計年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、新株予約権残高はありますが、当社株式は前連会計年度において非上場であり、期中平均株価が把握できないため記載しておりません。
2. 当社は2019年12月10日付で東京証券取引所市場第二部に上場したため、当連結会計年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益は、新規上場日から当連結会計年度末までの平均株価を期中平均株価とみなして算定しております。
3. 1株当たり当期純利益及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)	当連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)
1株当たり当期純利益		
親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	1,333,735	1,696,999
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	1,333,735	1,696,999
普通株式の期中平均株式数(株)	17,942,200	17,957,675
潜在株式調整後1株当たり当期純利益		
親会社株主に帰属する当期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(株)	-	77,321
(うち新株予約権(株))	(-)	(77,321)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定に含めなかった潜在株式の概要	新株予約権2種類 (新株予約権の数 2,432個) なお、新株予約権の概要は「第4 提出会社の状況 1 株式等の状況(2)新株予約権等の状況」に記載のとおりであります。	-

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

会社名	銘柄	発行年月日	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	利率(%)	担保	償還期限
(株)テクノフレックス	第1回適格機関投資家 譲渡限定私簿	2016年3月25日	300,000	180,000 (120,000)	0.19	無し	2021年3月25日
合計	-	-	300,000	180,000 (120,000)	-	-	-

(注) 1. 「当期末残高」欄の( )内書は、1年内償還予定の金額であります。

2. 連結決算日後5年間の償還予定額は以下のとおりであります。

1年以内(千円)	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
120,000	60,000	-	-	-

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	1,500,000	1,500,000	0.601	-
1年以内に返済予定の長期借入金	1,271,083	565,171	0.894	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	1,641,829	1,084,957	0.966	2021年1月～ 2024年8月
合計	4,412,913	3,150,129	-	-

(注) 1. 平均利率については、借入金の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. 長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	481,837	411,929	177,629	13,559

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により記載を省略しております。

(2)【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(千円)	-	-	14,431,570	18,999,763
税金等調整前四半期(当期)純利益(千円)	-	-	2,158,217	2,623,549
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益(千円)	-	-	1,374,031	1,696,999
1株当たり四半期(当期)純利益(円)	-	-	76.58	94.50

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益(円)	-	-	36.30	17.98

(注) 当社は、2019年12月10日付で東京証券取引所市場第二部に上場いたしましたので、当連結会計年度の四半期報告書は提出していませんが、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表について、三優監査法人により四半期レビューを受けております。

## 2【財務諸表等】

## (1)【財務諸表】

## 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2018年12月31日)	当事業年度 (2019年12月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	1,020,903	1,594,666
受取手形	4,204,738	4,179,813
売掛金	2,164,518	2,125,668
リース投資資産	1,991,911	1,933,247
商品及び製品	678,218	781,608
仕掛品	202,020	178,730
原材料及び貯蔵品	748,367	836,367
前渡金	362	-
前払費用	12,191	12,250
その他	2,82,582	2,87,672
貸倒引当金	109	90
流動資産合計	7,428,706	7,480,934
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物	1,53,247,530	1,53,274,295
構築物	30,926	30,083
機械及び装置	5,626,042	5,607,294
車両運搬具	23,908	16,260
工具、器具及び備品	5,42,079	5,69,448
土地	1,3,708,768	1,3,708,768
建設仮勘定	170,570	6,195
有形固定資産合計	7,849,827	7,712,346
<b>無形固定資産</b>		
ソフトウェア	80,325	268,780
その他	1,632	6,161
無形固定資産合計	81,958	274,942
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	118,977	145,208
関係会社株式	3,506,983	3,506,983
関係会社出資金	1,472,952	1,472,952
関係会社長期貸付金	1,590,000	1,580,000
長期前払費用	14,185	10,961
繰延税金資産	57,649	24,610
その他	191,733	227,147
貸倒引当金	1,154,335	1,335,893
投資その他の資産合計	5,798,147	5,631,970
固定資産合計	13,729,932	13,619,259
資産合計	21,158,638	21,100,193

(単位：千円)

	前事業年度 (2018年12月31日)	当事業年度 (2019年12月31日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
買掛金	2,664,019	2,739,246
1年内償還予定の社債	120,000	120,000
短期借入金	1,216,340,000	1,216,760,000
1年内返済予定の長期借入金	1,122,842	1,520,930
未払金	2,599,533	2,450,066
未払費用	221,955	194,618
未払法人税等	212,728	103,953
前受金	4,562	-
預り金	23,147	23,807
前受収益	2,180	2,180
製品保証引当金	-	28,459
その他	21,642	68,702
流動負債合計	5,436,611	5,011,965
<b>固定負債</b>		
社債	180,000	60,000
長期借入金	1,145,261	1,939,631
役員退職慰労引当金	11,987	11,987
資産除去債務	22,079	22,080
長期預り保証金	1,977,200	1,920,638
固定負債合計	2,643,529	1,954,337
負債合計	8,080,140	6,966,302
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	95,000	1,000,000
資本剰余金		
資本準備金	2,872,230	1,967,230
資本剰余金合計	2,872,230	1,967,230
利益剰余金		
利益準備金	112,407	112,407
その他利益剰余金		
特別償却準備金	145,038	124,420
別途積立金	1,967,000	1,967,000
圧縮積立金	2,007	1,845
圧縮特別勘定積立金	80,025	-
繰越利益剰余金	11,077,750	11,894,521
利益剰余金合計	13,384,228	14,100,196
自己株式	3,431,278	3,155,881
株主資本合計	12,920,180	13,911,545
<b>評価・換算差額等</b>		
その他有価証券評価差額金	27,972	46,920
繰延ヘッジ損益	130,344	175,424
評価・換算差額等合計	158,317	222,345
純資産合計	13,078,497	14,133,890
負債純資産合計	21,158,638	21,100,193

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)	当事業年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)
売上高	1 11,569,806	1 10,307,292
売上原価	1 7,747,169	1 6,764,878
売上総利益	3,822,637	3,542,414
販売費及び一般管理費	1, 2 2,222,430	1, 2 2,377,925
営業利益	1,600,206	1,164,488
営業外収益		
受取利息	1 15,291	1 13,840
受取配当金	1 549,526	1 770,183
仕入割引	6,996	7,672
その他	1 52,264	1 19,212
営業外収益合計	624,078	810,908
営業外費用		
支払利息	1 39,747	1 35,179
社債利息	686	447
貸倒引当金繰入額	406,361	181,558
上場関連費用	-	24,552
その他	17,082	15,111
営業外費用合計	463,877	256,848
経常利益	1,760,407	1,718,549
特別利益		
固定資産売却益	35	-
特別利益合計	35	-
特別損失		
固定資産売却損	111	-
固定資産除却損	33,572	4,447
特別損失合計	33,684	4,447
税引前当期純利益	1,726,759	1,714,101
法人税、住民税及び事業税	594,254	414,290
法人税等調整額	54,108	18,631
法人税等合計	540,146	432,921
当期純利益	1,186,612	1,281,180

【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 2018年1月1日 至 2018年12月31日）

（単位：千円）

	株主資本									
	資本金	資本剰余金		利益剰余金						
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金					利益剰余金合計
					特別償却準備金	別途積立金	圧縮積立金	圧縮特別勘定積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	95,000	2,872,230	2,872,230	112,407	181,500	1,967,000	2,313	80,012	10,392,647	12,735,882
当期変動額										
剰余金の配当									538,266	538,266
当期純利益									1,186,612	1,186,612
特別償却準備金の積立					5,334				5,334	-
特別償却準備金の取崩					41,796				41,796	-
圧縮積立金の取崩							306		306	-
圧縮特別勘定積立金の積立								12	12	-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）										
当期変動額合計	-	-	-	-	36,462	-	306	12	685,102	648,346
当期末残高	95,000	2,872,230	2,872,230	112,407	145,038	1,967,000	2,007	80,025	11,077,750	13,384,228

	株主資本		評価・換算差額等			純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	評価・換算差額等合計	
当期首残高	3,431,278	12,271,834	49,868	8,009	57,878	12,329,712
当期変動額						
剰余金の配当		538,266				538,266
当期純利益		1,186,612				1,186,612
特別償却準備金の積立		-				-
特別償却準備金の取崩		-				-
圧縮積立金の取崩		-				-
圧縮特別勘定積立金の積立		-				-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）			21,896	122,335	100,438	100,438
当期変動額合計	-	648,346	21,896	122,335	100,438	748,785
当期末残高	3,431,278	12,920,180	27,972	130,344	158,317	13,078,497

当事業年度（自 2019年1月1日 至 2019年12月31日）

（単位：千円）

	株主資本									
	資本金	資本剰余金			利益剰余金					
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金					利益剰余金合計
					特別償却準備金	別途積立金	圧縮積立金	圧縮特別勘定積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	95,000	2,872,230	2,872,230	112,407	145,038	1,967,000	2,007	80,025	11,077,750	13,384,228
当期変動額										
剰余金の配当									502,381	502,381
当期純利益									1,281,180	1,281,180
特別償却準備金の積立					15,880				15,880	-
特別償却準備金の取崩					42,708				42,708	-
圧縮積立金の取崩							266		266	-
圧縮等別勘定積立金の取崩								80,025	80,025	-
自己株式の処分									34,300	34,300
新株予約権の行使									28,531	28,531
準備金から資本金への振替	905,000	905,000	905,000							-
税率変更による積立金の調整額					6,210		105		6,316	-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）										
当期変動額合計	905,000	905,000	905,000	-	20,617	-	161	80,025	816,771	715,967
当期末残高	1,000,000	1,967,230	1,967,230	112,407	124,420	1,967,000	1,845	-	11,894,521	14,100,196

	株主資本		評価・換算差額等			純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評 価差額金	繰延ヘッジ損益	評価・換算差額等 合計	
当期首残高	3,431,278	12,920,180	27,972	130,344	158,317	13,078,497
当期変動額						
剰余金の配当		502,381				502,381
当期純利益		1,281,180				1,281,180
特別償却準備金 の積立		-				-
特別償却準備金 の取崩		-				-
圧縮積立金の取 崩		-				-
圧縮等別勘定積 立金の取崩		-				-
自己株式の処分	200,800	166,500				166,500
新株予約権の行 使	74,597	46,066				46,066
準備金から資本 金への振替		-				-
税率変更による 積立金の調整額		-				-
株主資本以外の 項目の当期変動 額（純額）			18,948	45,079	64,028	64,028
当期変動額合計	275,397	991,364	18,948	45,079	64,028	1,055,392
当期末残高	3,155,881	13,911,545	46,920	175,424	222,345	14,133,890

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式

移動平均法による原価法を採用しております。

その他有価証券

時価のあるもの

期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

(2) デリバティブの評価基準及び評価方法

時価法を採用しております。

(3) たな卸資産の評価基準及び評価方法

商品及び製品・・・移動平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

仕掛品・・・・・・個別法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

原材料・・・・・・主として移動平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

定率法によっております。

ただし、建物(建物附属設備を除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法によっております。

(2) 無形固定資産

定額法を採用しております。

ただし、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)による定額法によっております。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 製品保証引当金

販売した製品の無償修理及び無償交換に伴う費用の支出に備えるため、当該費用を個別に見積り算出した額を計上しております。

(追加情報)

従来、製品の無償修理及び無償交換に伴う費用は、支出確定時の費用として処理しておりましたが、当事業年度において当該費用の金額的重要性が増したことから、当事業年度より製品保証引当金を計上しております。

この変更により販売費及び一般管理費は28,459千円増加し、営業利益、経常利益及び税引前当期純利益がそれぞれ同額減少しております。

(3) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

4. 収益及び費用の計上基準

所有権移転外ファイナンス・リース取引(貸手)については、リース料を収受すべき時に売上高と売上原価を計上する方法によっております。

5. その他財務諸表作成のため基本となる重要な事項

(1) 外貨建資産または負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

## (2) ヘッジ会計の方法

### ヘッジ会計の方法

原則として、繰延ヘッジ処理を採用しております。なお、振当処理の要件を充たしている為替予約については振当処理を、特例処理の要件を満たしている金利スワップについては、特例処理を採用しております。

### ヘッジ手段とヘッジ対象

- a. ヘッジ手段・・・為替予約  
ヘッジ対象・・・外貨建仕入債務及び外貨建輸入予定取引
- b. ヘッジ手段・・・金利スワップ  
ヘッジ対象・・・借入金

### ヘッジ方針

取締役会で決定した取引の基本方針に基づき、為替変動リスク及び金利変動リスクをヘッジしております。

### ヘッジ有効性評価の方法

為替予約については、ヘッジ対象の範囲内で予定取引と同一通貨の為替予約を付しており、ヘッジ手段とヘッジ対象との間の相関関係は継続して確保されておりますので、ヘッジ有効性の評価は省略しております。

また、特例処理を採用している金利スワップについては、有効性の評価を省略しております。

## (3) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。

## (表示方法の変更)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」の適用に伴う変更)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)を当事業年度の期首から適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更しました。

この結果、前事業年度の貸借対照表において「流動資産」の「繰延税金資産」143,267千円は、「固定負債」の「繰延税金負債」85,618千円と相殺して、「投資その他の資産」の「繰延税金資産」57,649千円として表示しており、変更前と比べて総資産が85,618千円減少しております。

## (有価証券明細表)

財務諸表等規則第121条第1項第1項第1号に定める有価証券明細表については、同条第3項により、記載を省略しております。

(貸借対照表関係)

1 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前事業年度 (2018年12月31日)	当事業年度 (2019年12月31日)
リース投資資産	991,911千円	933,247千円
建物	2,659,597	2,498,254
土地	2,945,213	2,811,165
計	6,596,722	6,242,667

担保付債務は、次のとおりであります。

	前事業年度 (2018年12月31日)	当事業年度 (2019年12月31日)
短期借入金	1,000,000千円	1,000,000千円
1年内返済予定の長期借入金	285,920	368,013
長期借入金	822,000	711,531
長期預り保証金	977,200	920,638
計	3,085,120	3,000,182

なお、当該担保資産の一部は、上記の担保付債務以外に連結子会社の債務189,568千円(前事業年度233,810千円)の担保に供しております。

2 関係会社項目

関係会社に対する資産及び負債には区分掲記されたもののほか次のものがあります。

	前事業年度 (2018年12月31日)	当事業年度 (2019年12月31日)
短期金銭債権	72,636千円	65,617千円
短期金銭債務	1,180,355	1,685,953

3 保証債務

次の関係会社について、仕入先への仕入債務及び金融機関からの借入に対して、債務保証を行っております。

債務保証

	前事業年度 (2018年12月31日)	当事業年度 (2019年12月31日)
(株)スペースケア(仕入債務)	2,008千円	770千円
(借入債務)	233,810	189,568
計	235,818	190,338

4 期末日満期手形

期末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、当事業年度の末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形が期末残高に含まれております。

	前事業年度 (2018年12月31日)	当事業年度 (2019年12月31日)
受取手形	213,151千円	148,126千円

5 圧縮記帳額

国庫補助金等により取得価額から控除している圧縮記帳額及び内訳は、次のとおりであります。

	前事業年度 (2018年12月31日)	当事業年度 (2019年12月31日)
建物	19,391千円	19,391千円
機械及び装置	87,642	87,642
工具、器具及び備品	2,548	2,548
計	109,582	109,582

6 当座貸越契約

当社においては運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行3行と当座貸越契約を締結しております。  
この契約に基づく当事業年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。

	前事業年度 (2018年12月31日)	当事業年度 (2019年12月31日)
当座貸越極度額	3,400,000千円	3,400,000千円
借入実行残高	1,500,000	1,500,000
差引額	1,900,000	1,900,000

(損益計算書関係)

1 関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれております。

	前事業年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)	当事業年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)
営業取引による取引高		
売上高	93,038千円	102,961千円
売上原価	2,930,639	2,263,928
販売費及び一般管理費	113	2,310
営業取引以外の取引による取引高		
受取利息	14,751	13,658
受取配当金	546,465	766,495
営業外収益その他	1,052	1,916
支払利息	5,787	7,997

2 販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度20%、当事業年度20%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度80%、当事業年度80%であります。販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)	当事業年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)
給料	536,895千円	558,258千円
荷造運賃	326,119	328,712
減価償却費	84,933	107,473
製品保証引当金繰入額	-	28,459

(有価証券関係)

前事業年度(2018年12月31日)

子会社株式及び関係会社出資金(貸借対照表計上額は関係会社株式3,506,983千円、関係会社出資金1,472,952千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

当事業年度(2019年12月31日)

子会社株式及び関係会社出資金(貸借対照表計上額は関係会社株式3,506,983千円、関係会社出資金1,472,952千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2018年12月31日)	当事業年度 (2019年12月31日)
繰延税金資産		
未払賞与	75,855千円	51,135千円
製品保証引当金	-	8,714
役員退職慰労引当金	4,146	3,670
減価償却限度超過額	80,537	57,111
減損損失	39,864	35,289
合併受入土地評価差額	23,739	21,014
貸倒引当金	384,921	409,078
資産除去債務	7,637	6,760
棚卸資産評価損	61,674	44,295
子会社株式評価損	44,967	39,806
未払事業税	26,584	3,197
その他	23,345	24,799
繰延税金資産小計	773,275	704,873
評価性引当額	511,825	526,407
繰延税金資産合計	261,449	178,465
繰延税金負債		
特別償却準備金	76,698	54,911
その他有価証券評価差額金	14,792	20,707
繰延ヘッジ損益	68,928	77,421
圧縮積立金	1,061	814
圧縮特別勘定積立金	42,318	-
繰延税金負債合計	203,800	153,855
繰延税金資産の純額	57,649	24,610

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (2018年12月31日)	当事業年度 (2019年12月31日)
法定実効税率	34.8%	30.6%
(調整)		
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	10.8%	13.4%
税額控除	2.2%	1.1%
評価性引当額の増減	7.7%	4.3%
その他	1.8%	4.8%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	31.3%	25.3%

3. 外形標準課税に伴う実効税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の修正

当社は、当事業年度に資本金が1億円超となり、外形標準課税適用法人となりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は、従来の34.6%から30.6%に変更しております。なお、この税率変更による影響額は軽微であります。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期償却額 (千円)	当期末残高 (千円)	減価償却累計額 (千円)
有形固定資産						
建物	3,247,530	193,153	979	165,409	3,274,295	2,953,939
構築物	30,926	4,523	-	5,367	30,083	225,420
機械及び装置	626,042	128,040	107	146,680	607,294	1,945,781
車両運搬具	23,908	3,723	305	11,065	16,260	76,526
工具、器具及び備品	42,079	80,367	0	52,998	69,448	434,387
土地	3,708,768	-	-	-	3,708,768	-
建設仮勘定	170,570	6,195	170,570	-	6,195	-
有形固定資産計	7,849,827	416,003	171,963	381,521	7,712,346	5,636,055
無形固定資産						
ソフトウェア	80,325	215,687	-	27,232	268,780	141,189
その他	1,632	4,686	-	156	6,161	156
無形固定資産計	81,958	220,373	-	27,389	274,942	141,346

(注) 当期増加額のうち主なものは次のとおりであります。

ソフトウェア 基幹システム構築費用 213,111千円

【引当金明細表】

科目	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	1,154,444	181,648	109	1,335,983
製品保証引当金	-	28,459	-	28,459
役員退職慰労引当金	11,987	-	-	11,987

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

## 第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎年3月
基準日	事業年度末日
剰余金の配当の基準日	毎年12月31日 毎年6月30日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	-
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告により行う。ただし、事故やその他やむを得ない事由によって電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。 公告記載URL <a href="http://www.technoflex.co.jp/index.php">http://www.technoflex.co.jp/index.php</a>
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 当会社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができない旨を定款で定めております。

- (1) 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
- (2) 取得請求権付株式の取得を請求する権利
- (3) 募集株式又は募集新株予約権の割当てを受ける権利

## 第7【提出会社の参考情報】

### 1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

### 2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

- (1) 有価証券届出書（有償一般募集による自己株式の処分及び売出し）及びその添付書類  
2019年11月7日関東財務局長に提出。
- (2) 有価証券届出書の訂正届出書  
2019年11月22日及び2019年12月2日関東財務局長に提出。  
2019年11月7日提出の有価証券届出書に係る訂正届出書であります。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の監査報告書

2020年3月30日

株式会社テクノフレックス

取締役会 御中

### 三優監査法人

指定社員 公認会計士 山本 公太  
業務執行社員

指定社員 公認会計士 齋藤 浩史  
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社テクノフレックスの2019年1月1日から2019年12月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

#### 連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社テクノフレックス及び連結子会社の2019年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBR Lデータは監査の対象には含まれていません。

## 独立監査人の監査報告書

2020年3月30日

株式会社テクノフレックス

取締役会 御中

### 三優監査法人

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 山本 公太

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 齋藤 浩史

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社テクノフレックスの2019年1月1日から2019年12月31日までの第19期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

#### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社テクノフレックスの2019年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBR Lデータは監査の対象には含まれていません。